ISSN 0915-1613

年　報　14

平成９年度

１９９８．３

山梨県埋蔵文化財センター

ISSN 0915-1613

年　報　14

平成９年度

１９９８．３

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で16年が経過し、この間、当センターが発掘調査を行ってまいりました遺跡は260件を超え、刊行しました発掘調査報告書も150冊以上となりました。これらの内容は、旧石器時代から近現代に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。また、発掘調査で得られた貴重な資料は、「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により本県の歴史を理解していただくための啓蒙普及活動に県内外で広く活用され、その内容も年々充実したものとなっております。

本書は、1997年度に当埋蔵文化センターが実施しました発掘調査及び試掘調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、17遺跡の発掘調査と９件の事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、山梨県指定史跡甲府城跡では大型建築物に使われたとみられる大型の円形飾り瓦（違い鷹の羽紋）及び浅野時代の金箔飾り瓦（鬼桐紋）が出土したほか、築城期に作られたとみられる石段や陰陽道の儀礼に関係したとみられる線刻画がみつかるなど新発見が相次ぎました。また、大月市梁川町の塩瀬下原遺跡からは縄文時代中期の埋甕52基が検出されたほか、長さ80㎝・直径26㎝にもおよぶ縄文時代後期の大型石棒が出土し、祭祀性の強い遺跡として注目されました。御坂町の桂野遺跡では関西系の土器だけが残された縄文時代前期の住居跡が検出され、塩山市の下西畑遺跡では東海地方に特徴的な形態を持った古墳時代前期の方形周溝墓が出土し、当時の人々の活発な交流を伺うことができる事例となりました。また、甲府市の富士見一丁目遺跡からは弥生の水田の初期形態である「小区画水田」が盆地底部で初めて確認され、境川村の諏訪尻遺跡では直径13ｍを超える県内最大級の古墳時代の竪穴住居跡が出土するなど、古代甲斐国の社会の様子を知る上で貴重な資料が確認されております。

また、県の海外技術研修員受け入れ事業に基づいて、中国四川省文物考古研究所考古隊長王魯茂氏を７月１日から３月中旬までの約９ヶ月間受け入れております。

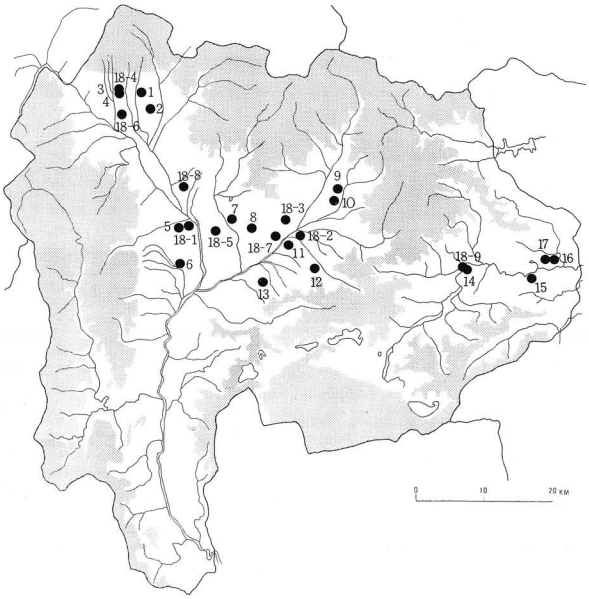
ここ数年、県内においては年間200件近い発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ止まるところを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われていくことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産の一つである遺跡を可能な限り未来につなげていくのが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用していただき、埋蔵文化財の保存保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願いいたします。

1998年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　大塚初重

目　次

Ⅰ　1997年度の事業概要
1　発掘調査 …… 1
2　整理調査 …… 1
3　発掘調査報告書 …… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可 …… 3
5　調査研究課課内研究グループ …… 8
6　遺跡調査発表会 …… 9
7　山梨の遺跡展’97 …… 10
8　第９回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 10
9　調査研究課課内研修 …… 11
10　寄贈・購入図書 …… 12
11　海外研修生受入事業 …… 12
Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要
1　甲ツ原遺跡 …… 13
2　大林上・大林遺跡 …… 15
3　米山遺跡 …… 18
4　横針遺跡 …… 19
5　石橋北屋敷遺跡 …… 21
6　八田畑遺跡 …… 22
7　富士見一丁目遺跡 …… 23
8　甲府城跡（県指定史跡） …… 26
9　伊保水遺跡 …… 29
10　下西畑遺跡 …… 31
11　石和高校周辺遺跡 …… 33
12　桂野遺跡（第２次調査） …… 35
13　諏訪尻遺跡 …… 37
14　大月遺跡（第７次調査：大月バイパス本線部分） …… 39
15　塩瀬下原遺跡 …… 41
16　南大浜遺跡 …… 43
17　長峰砦遺跡 …… 45
18　八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査 …… 46
Ⅲ　県内の概況
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・1997年度発掘調査一覧 …… 52



1997年度発掘調査　位置図

1．本書は、1997年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2．本書の編集は萩原孝一、田口明子がおこなった。

3．今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は３月末日現在で集計したものである。

4．第Ⅱ章各遺跡の発掘調査概要の発掘調査面積の（　　）内は調査対象面積である。

5．左記の地図は1997年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は右ページの［１発掘調査］の表に対応している。

職　員　組　織

所長	大塚初重
次長	藤田修
総務課課長	藤田修
埋蔵文化財指導幹	森和敏
調査研究第１課課長	森和敏
調査研究第２課課長	田代孝

	総務課	
総務担当	副主査	一瀬好史
	主事	矢崎寛
	主事	中村紀子
	文書事務員	有泉百合恵
	業務員	久保川一三

調査研究第１課		
調査第一担当	副主幹・文化財主事	坂本美夫
	主任・文化財主事	熊谷栄二
	文化財主事	小林孝子
	文化財主事	米山真
	文化財主事	市川恵子
調査第二担当	主査・文化財主事	八巻與志夫
	主任・文化財主事	高野玄明
	主任・文化財主事	雨宮芳夫
	主任・文化財主事	深沢容子
	文化財主事	田口明子
	文化財主事	宮里学
調査第三担当	副主査・文化財主事	保坂康夫
	主任・文化財主事	山本茂樹
	主任・文化財主事	吉岡弘樹
	主任・文化財主事	川手昌英
	文化財主事	萩原孝一
	非常勤嘱託	渡辺泰彦

調査研究第２課		
調査第四担当	副主幹・文化財主事	新津健
	主査・文化財主事	小林広和
	主任・文化財主事	村石眞澄
	主任・文化財主事	清水裕司
	文化財主事	小林健二
	非常勤嘱託	依田幸浩
調査第五担当	主査・文化財主事	米田明訓
	主査・文化財主事	保坂一英
	主任・文化財主事	三田村美彦
	主任・文化財主事	保坂和博
	文化財主事	野代幸和
調査第六担当	主査・文化財主事	長沢宏昌
	主任・文化財主事	小林公治
	主任・文化財主事	崎田哲
	主任・文化財主事	伊藤伸一
	文化財主事	笠原みゆき
	文化財主事	長田雅巳

Ⅰ　1997年度の事業概要

1．発掘調査

今年度は17遺跡の発掘調査と９事業にかかわる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設10、建物建設４、公園整備１、グランド拡張整備１、分譲地造成１となる。調査は、４月中旬から３月下旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

番号	遺　跡　名　他	番号	遺　跡　名　他
1	甲ツ原遺跡	15	塩瀬下原遺跡
2	大林上遺跡	16	南大浜遺跡
3	米山遺跡	17	長峰砦遺跡
4	横針遺跡	18	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査
5	石橋北屋敷遺跡	-1	中部横断自動車道試掘調査
6	八田畑遺跡	-2	石和町松葉畑南地区試掘調査
7	富士見一丁目遺跡	-3	西関東自動車道路関連遺跡分布調査
8	山梨県指定史跡甲府城跡	-4	中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事対象地域試掘調査
9	伊保水遺跡		
10	下西畑遺跡	-5	元免許地区試掘調査
11	石和高校周辺遺跡	-6	大林遺跡範囲確認調査
12	桂野遺跡	-7	石和警察署移転予定地試掘調査
13	諏訪尻遺跡	-8	宮久保地区試掘調査
14	大月遺跡	-9	御立原遺跡試掘調査

2．整理調査

整理調査は、主に本年度調査した遺跡の基礎的整理調査と、基礎的な整理が済んだ遺跡の本格的整理調査とを、次のとおり行った。

(1)　基礎的整理調査

No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	石和高校周辺遺跡	5	大月遺跡
2	桂野遺跡	6	長峰砦跡
3	下西畑遺跡	7	南大浜遺跡
4	塩瀬下原遺跡	8	諏訪尻遺跡
		9	富士見一丁目遺跡

(2) 本格的整理調査

No.	遺　　跡　　名	事　　業　　名	発　掘　年　度
1	米倉山Ｂ・清水遺跡	米倉山ニュータウン建設	1991～1994
2	岩清水遺跡	風土記の丘公園整備	1994
3	新居道下遺跡	中部横断自動車道建設	1990～1993
4	村前東Ａ遺跡	中部横断自動車道建設	1990・1993～1996
5	宮沢中村遺跡	中部横断自動車道建設	1994・1996
6	四ツ塚古墳群	森と水のプロムナード整備	1995
7	矢坪遺跡・談合坂遺跡	中央自動車道改築	1995
8	御所遺跡	一般国道20号改築他	1995
9	鰍沢河岸跡	一般国道52号改築他	1996・1997
10	酒呑場遺跡	酪農試験場整備	1996
11	海道前Ｃ・横森遺跡他	一般国道141号改築他	1995～1997
12	甲ツ原遺跡	県道須玉・八ヶ岳公園線建設	1997
13	八田畑遺跡	小笠原団地建設	1997
14	山梨県指定史跡　甲府城跡	舞鶴城公園整備	1997
15	山梨県堤防･河岸遺跡分布調査	分布調査	1997
16	伊保水遺跡	県立産業技術短期大学校建設	1997

3．発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No.	報　告　書　名	No.	報　告　書　名
第145集	甲ツ原遺跡Ⅳ	第150集	八田畑遺跡
第146集	諏訪前遺跡	第151集	矢坪遺跡　談合坂遺跡
第147集	新居道下遺跡	第152集	山梨県堤防･河岸遺跡分布調査報告書
第148集	鰍沢河岸跡	第153集	東原遺跡
第149集	伊保水遺跡	第154集	御所遺跡
		第156集	山梨県指定史跡　甲府城跡Ⅷ

4．収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

番号	申請者	利用目的	貸し出し期間	申請物件名
1	富士市立博物館	企画展「富士川の舟運」に展示	4．8～6．8	鰍沢河岸跡出土陶磁器類24点・赤瓦1点・黒瓦1点・貨幣62点・硯3点・石盤1点・石筆1点・水滴2点・固形絵の具器2点・鍵1点・火箸1点・キセル2点・目抜き1点・土製品20点・さいころ1点・碁石2点・石けりの石3点・おはじき6点
2	奥松島縄文村歴史資料館	「物語の印された土器・山梨県一の沢西遺跡の縄文土器」展に展示	4．15～9．5	一の沢西遺跡出土縄文土器14点・人面把手1点・ミニチュア土器3点・土製円盤9点・土偶4点・耳飾り2点・土錘1点・石器56点
3	遠野市立博物館	特別展「縄文の暮らしと精神文化」に展示	7．15～9．30	安道寺遺跡出土土偶頭部2点、金生遺跡出土中空土偶（レプリカ）1点・土製耳飾り7点・土偶1点、海道前C遺跡出土顔面把手付土器1点、一の沢西遺跡出土縄文土器3点、甲ツ原遺跡出土縄文土器2点、水呑場遺跡出土縄文土器1点、国分遺跡出土縄文土器1点、北堀遺跡出土縄文土器1点、上の平遺跡出土縄文土器1点、上野原遺跡出土縄文土器2点
4	文化庁	海外展「日本の原始美術―縄文土器―」マレーシア国立博物館に展示	9．1～12．26	宮の前遺跡出土縄文土器1点、安道寺遺跡出土有孔鍔付土器1点、上野原遺跡出土縄文土器1点、一の沢西遺跡出土縄文土器7点、殿林遺跡出土縄文土器（重要文化財）1点、金生遺跡出土中空土偶1点
5	大宮市立博物館	特別展「縄文人の顔～土偶・土面から見た素顔～」に展示	9．20～12．10	一の沢西遺跡出土土偶2点
6	春日居町郷土資料館	企画展「甲斐国の古代寺院」に展示	9．24～12．7	川田瓦窯址出土鴟尾1点・軒丸瓦6点・丸瓦1点・平瓦1点、長谷寺跡出土平瓦1点・丸瓦1点・土師質土器1点、大積寺跡出土平瓦1点・軒平瓦1点、瑜伽寺跡出土軒平瓦1点、桜井畑A遺跡出土軒丸瓦1点・丸瓦1点・墨書土器1点・琥珀小玉1点
7	釈迦堂遺跡博物館	特別展「渦巻の神秘～土器にあふれる縄文のエネルギー～」に展示	9．10～12．6	花鳥山遺跡出土深鉢形土器3点、天神遺跡出土深鉢形土器1点、上の平遺跡出土深鉢形土器3点、大月遺跡出土深鉢形土器1点、中谷遺跡出土深鉢形土器1点、一の沢遺跡出土水煙文把手付土器1点、上の平遺跡出土水煙文把手付土器1点、川又坂上遺跡出土注口土器1点、中谷遺跡出土注口土器1点、金生遺跡出土土偶2点、金生遺跡出土土版1点・土製耳飾り2点、上野原遺跡出土三角土製品1点
8	榛東村耳飾り館	企画展「土偶の装い」に展示	10．2～12．2	金生遺跡出土土偶7点・耳飾り7点

今年度は以下の写真等の掲載許可申請があり許可した。

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	3.29	奥松島縄文村歴史資料館	企画展「物語の印された土器―山梨県一の沢西遺跡の縄文土器―」展示図録に掲載	一の沢西遺跡出土深鉢形土器３点・土偶１点・作業風景写真14点、安道寺遺跡出土深鉢形土器１点・土偶１点
2	4.1	㈱エルフ	カーナビゲーション用ソフトに掲載	考古博物館正面１点
3	4.17	NHK甲府放送局	「まるまる山梨610」で放送	甲府城出土金箔鯱瓦１点・鬼瓦１点
4	4.19	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」1997年５月号に掲載	大師東丹保遺跡発掘風景１点、大塚遺跡航空写真１点
5	5.1	㈲木杳舎	ビジネスマン知的雑学塾「縄文人がおもしろい」に掲載	安道寺遺跡出土水煙把手付土器１点、一の沢西遺跡出土大型把手付土器３点・有孔鍔付土器１点
6	5.1	㈱ＤＨＣ	「天皇家の食卓」に掲載	安道寺遺跡出土水煙把手付土器１点
7	5.14	㈱講談社	「歴史発掘」第３巻「縄文の土偶」に掲載	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真１点
8	5.15	御坂町教育委員会	御坂町広報６月号に掲載	桂野遺跡出土土偶1点、平野遺跡発掘風景1点、鰍沢河岸跡出土遺物2点・見学会1点
9	5.22	山梨日日新聞社出版局	「新訂　山梨の遺跡」に掲載	銚子塚古墳出土遺物レプリカ２点、大丸山古墳出土遺物レプリカ一括１点・実物２点、黒駒の土偶１点
10	6.2	生涯学習文化振興課	「やまなしまなびネットワークシステム」に登載	上の平遺跡出土弥生土器１点・縄文時代住居の発掘１点・土鈴１点・方形周溝墓群１点・顔面把手１点、金生遺跡祭祀場（配石）２点・翡翠大珠２点・土製耳飾り１点・縄文土器２点・土偶２点・石棒１点・石剣１点、一の沢西遺跡出土縄文土器10点・土偶２点・土器出土状況１点、天神遺跡出土縄文土器１点・有孔土器１点・漆塗り土器１点・翡翠大珠２点・土器出土状況１点、上野原遺跡出土縄文土器３点、殿林遺跡出土縄文土器１点、宮の前遺跡出土縄文土器１点、安道寺遺跡出土縄文土器３点・有孔鍔付土器１点・土偶１点・顔面把手１点、柳坪遺跡出土縄文土器２点・土鈴１点・吊り手土器１点、天神堂遺跡出土調理場跡（礫群）１点・槍先形尖頭器１点・ナイフ形石器１点、三光遺跡出土翡翠大珠１点、甲ツ原遺跡出土土鈴１点・琥珀玉１点・縄文土器１点、釈迦堂遺跡出土土笛１点・土偶１点、兄川出土ナウマンゾウ臼歯１点、金の尾遺跡出土弥生土器２点・ガラス玉１点・炭化米１点、東山北遺跡出土石包丁１点・住居跡群１点、身洗沢遺跡出土櫛１点・足跡１点・木製農具１点、銚子塚古墳出土三角縁人物車馬鏡１点・埴輪１点・木製祭祀具１点、亀甲塚古墳出土盤竜鏡１点。姥塚遺跡出土土師器１点・発掘風景１点、稲荷塚古墳出土銀象嵌大刀２点、寺所遺跡出土土師器甕１点・土師器坏２点・鋸１点・やっとこ１点・鉄鏃１点・生活什器１点、狐原遺跡出土「玉井」墨書土器１点、丘の公園遺跡出土槍先形尖頭器１点、宿尻遺跡出土顔面把手１点、中谷遺跡出土注口土器１点、西田遺跡出土縄文土器１点・土師器１点、水口遺跡出土縄文土器浅鉢１点、海道前Ｃ遺跡出土顔面把手付縄文土器１点、大丸山古墳出土短甲１点・手斧１点、かんかん塚古墳出土馬具１点・金生Ｂ遺跡出土陶磁器類１点、桜井畑遺跡出土陶磁器類１点、甲府城跡出土風神鬼瓦１点、勝沼氏館跡出土飾金具１点

11	6.6	文化庁	海外展「日本の原始美術―縄文土器―」展示図録等に掲載	宮の前遺跡出土縄文土器１点・遺物出土状況１点、安道寺遺跡出土有孔鍔付土器１点、上野原遺跡出土縄文土器１点、一の沢西遺跡出土縄文土器７点・有孔鍔付土器１点・遺物出土状況２点・発掘風景１点、殿林遺跡出土縄文土器１点、金生遺跡出土中空土偶１点
12	6.12	㈱新人物往来社	「中性都市研究4号　都市と宗教」に掲載	鰍沢河岸跡全景１点
13	6.13	大宮市立博物館	特別展「縄文の顔―土偶・土面から見た素顔―」展示図録に掲載	一の沢西遺跡出土土偶２点
14	6.18	山梨日日新聞社出版局	「ザ　やまなし」1997年７月号に掲載	宮の前遺跡埋甕出土状況１点
15	6.23	㈱新人物往来社 ㈲新創社	「別冊歴史読本　日本の城と天守」に掲載	甲府城跡出土人形付金箔鬼瓦１点・天守台現況１点
16	6.28	飯田市上郷考古博物館	平成９年度特別展「伊那谷の馬、科野の馬」に展示・広報物に掲載	塩部遺跡出土馬歯３点
17	7.1	㈱日本交通公社	「ガイドブック　ひとり歩きの伊豆・箱根・富士」に掲載	博物館外観１点
18	7.7	大洋出版社	「葬送の原点」に掲載	博物館展示室内金生遺跡配石復元１点、安道寺遺跡出土有孔鍔付土器１点、甲ツ原遺跡出土石皿・磨石１点
19	7.9	磯目　基	「誰でもわかる日本の古代史」に掲載	一の沢西遺跡出土深鉢形土器４点・浅鉢形土器１点・土偶１点・顔面把手１点・有孔鍔付土器１点
20	7.10	遠野市立博物館	特別展「縄文の暮らしと精神文化」展示図録に掲載	金生遺跡出土中空土偶１点、海道前Ｃ遺跡出土顔面把手付土器１点、甲ッ原遺跡出土獣面把手付土器１点
21	7.23	山梨日日新聞社出版局	「ザ　やまなし」1997年８月号に掲載	榎田遺跡出土土器１点・作業風景１点、塩部遺跡出土馬歯１点・方形周溝墓１点
22	7.23	㈱第一学習社	高等学校　日本史副教材「新編日本史図表」に掲載	金生遺跡配石遺構１点
23	7.30	春日居町教育委員会	平成９年度春日居町郷土館企画展「甲斐国の古代寺院」に展示	大積寺発掘調査風景１点・大積寺跡風景１点、瑜伽寺発掘調査風景１点、桜井畑遺跡発掘調査風景１点・瓦出土状況１点
24	7.30	NTTマルチメディアビジネス開発部	インターネットのホームページ「縄文ネットワーク」に掲載	上の平遺跡出土縄文土器１点・完堀状況１点、上野原遺跡出土縄文土器１点
25	8.9	後藤　昭二	「ブドウがブドウ酒に変わるとき」（仮題）に掲載	釈迦堂遺跡群塚越北Ａ地区出土有孔鍔付土器１点
26	8.19	㈱講談社	「歴史発掘」第5巻「原始絵画」に掲載	一の沢西遺跡出土深鉢形土器１点
27	8.21	釈迦堂遺跡博物館	特別展「渦巻の神秘―土器あふれる縄文のエネルギー―」展示図録等に掲載	上野原遺跡出土三角状土製品１点、中谷遺跡出土注口土器１点、天神遺跡出土深鉢形土器１点、川又坂上遺跡出土瓢箪形注口土器１点
28	8.22	日経ＢＰ社　日経アート編集部	日経アートブックス「食・花・酒とやきもの」（仮題）に掲載	殿林遺跡出土深鉢形土器１点
29	9.5	日本考古学協会	「日本考古学年報」第49号に掲載	酒呑場遺跡出土漆塗り土器１点・全景１点・出土状況４点・発掘区配置図１点・遺構分布図１点
30	9.18	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」1997年10月号に掲載	上の平遺跡遺構１点、東山北遺跡遺構１点、大丸山古墳出土品レプリカ１点、かんか

				ん塚古墳出土品１点、天狗沢窯跡出土瓦１点
31	９.25	㈱エイ・ワークス	カーナビゲーションソフト画面上に表示	考古博物館外観１点
32	10.２	㈱講談社	「歴史発掘」第5巻「原始絵画」に掲載	甲ッ原遺跡出土深鉢形土器１点
33	10.28	北海道新聞社	11月23日付北海道新聞日曜版「縄文」に掲載	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真１点
34	10.30	㈱平凡社・㈱日立デジタル平凡社	CD-ROM版百科事典「世界大百科」に掲載	殿林遺跡出土深鉢形土器１点
35	10.31	大阪府立弥生文化博物館	特別展「縄文と弥生のまつり」（仮題）展示図録等に掲載	一の沢西遺跡遺物出土状況１点、金生遺跡全景１点・２号配石遠景１点・２号配石近景１点
36	11.15	㈱ランダムコミュニケーションズ	ＰＨＰ研究所「古代遺跡めぐりハンドブック」に掲載	銚子塚古墳遠景１点、殿林遺跡出土深鉢形土器１点、一の沢西遺跡出土土偶１点、銚子塚古墳出土埴輪１点
37	11.22	㈲地人館	小峰書店発行「人物・遺産でさぐる日本の歴史」シリーズに掲載	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真１点
38	11.28	㈱アート・エフ	㈱正進社発行「歴史の資料」に掲載	上野原遺跡出土深鉢形土器１点、安道寺遺跡出土イノシシ形把手付深鉢形土器１点、一の沢西遺跡出土有孔鍔付土器１点
39	12.１	㈱新人物往来社	歴史読本　別冊「古代日本史　記紀・風土記　総覧」に掲載	一の沢西遺跡出土土偶１点・深鉢形土器１点、金生遺跡出土中空土偶１点、上野原遺跡出土深鉢形土器１点、上の平方形周溝墓広場１点、銚子塚古墳全景１点、考古博物館外観１点
40	12.３	㈱マルチクリエイト	㈱文理発行「ワイドビュー歴史」に掲載	上野原遺跡出土深鉢形土器１点
41	12.９	㈱ＮＴＴメディアスコープ ㈱ガジェット	ＮＴＴ提供インターネットホームページ「縄文ネットワーク」に掲載	一の沢西遺跡出土土偶１点・敷石住居１点、宿尻遺跡出土顔面把手１点、甲ッ原遺跡出土獣面把手付土器１点、安道寺遺跡出土獣面把手付土器１点、金生遺跡出土耳飾り１点・石棒１点・配石遺構模型１点、宮の前遺跡埋甕出土状況１点、天神遺跡出土垂飾１点、三光遺跡出土ヒスイ製大珠１点
42	１.７	㈱国土社・㈲自然舎	「古代を探る科学の目」（仮称）に掲載	天神跡出土ヒスイ大珠１点
43	１.10	㈱勉誠社	「土偶研究の地平」第２集に掲載	一の沢西遺跡出土土偶３点
44	１.20	山梨県教育委員会	「山梨県史１　原始古代１　考古（遺跡）」に掲載	八ヶ岳東南麓の遺跡群１点、丘の公園遺跡群14番ホール遺跡石器出土状況１点、甲ツ原遺跡掘立柱建物跡１点、宮の前遺跡出土単独埋甕１点、中谷遺跡敷石住居跡１点、金生遺跡２号配石１点、金の尾遺跡方形周溝墓群１点、上の平遺跡方形周溝墓１点、銚子塚古墳全景１点、丸山塚古墳全景１点、加牟那塚古墳石室１点、四ツ塚古墳群１号墳１点、経塚古墳全景１点、村前東遺跡集落跡１点、二の宮遺跡住居跡１点・出土遺物１点、安道寺遺跡出土水煙把手付深鉢形土器１点・深鉢形土器１点・有孔鍔付土器１点・イノシシ形把手付深鉢土器１点、花鳥山遺跡出土球根類１点・エゴマ１点、上野原遺跡４号住居１点・７Ｂ住居炉跡１点・Ｇ区縄文土器出土状況１点・Ｅ区縄文土器出土状況１点・２・５号道路状遺構１点、海道前Ｃ遺跡全景１点・１号住居調査風景１点・人面装飾付土器１点、酒呑場遺跡全景１点・Ａ区完掘状況１点・白色塗料の塗布された土偶１点、大月遺跡第６次調査１号住居出土遺物２点・６・10号住居１点・２号住居１点・13号住居１点・掘立柱状建物跡１点、長田口遺跡出土舶載鏡片１

				点、十五所遺跡方形周溝墓群１点、油田遺跡Ⅰ区全景１点・竪杵１点、大師東丹保遺跡Ⅰ区第二面水田跡と地割れ１点・Ⅰ区地割れ断面１点・Ⅲ区地割れ断面１点・Ⅰ区第三面溝中の火山灰１点・Ⅰ区第三面溝中の建築用材１点・Ⅳ区第二面古墳遠景１点・Ⅳ区出土壷形埴輪１点・Ⅳ区土器集中地点１点、亀甲塚古墳盤龍鏡１点、馬乗山１・２号墳全景１点・１号墳主体部全景１点、稲荷塚古墳墳丘１点・石室１点、米倉山古墳群くちゃあ塚古墳全景１点、下長崎遺跡全景１点・１号溝と水溜１点、侭ノ下遺跡１号住居１点・３号土坑遺物出土状態１点、岩清水遺跡１号住居出土遺物１点・１号円形周溝墓より銚子塚・丸山塚古墳を望む１点・１号円形周溝墓調査風景１点・調査区全景１点、大明神遺跡５号住居１点・５号住居遺物出土状況１点、新居道下遺跡45号住居１点・45号住居遺物出土状況１点、塩部遺跡人形１点、長谷寺開山院堂跡全景１点、瑜伽寺石列遺構１点、城下遺跡遺構近景１点、石橋条里遺跡第Ⅰ地点出土柱根１点・第Ⅰ地点発見井戸と踏鋤１点・第Ⅲ地点４号溝付近１点・第Ⅲ地点住居１点
45	2.2	㈱ベネッセコーポレーション	「チャレンジ３年生」平成10年５月号に掲載	甲ッ原遺跡出土深鉢土器１点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器１点、縄文クッキーの作り方写真４点、竪穴式住居の外観写真１点・内部写真１点・復元手順写真10点、小坂遺跡出土石鏃１点
46	2.5	朝日新聞社出版局	「週刊朝日百科　日本の国宝」第85号に掲載	銚子塚古墳全景１点
47	2.27	山梨県史編さん室	「山梨県史だより」15号に掲載のため	酒呑場遺跡出土有孔鍔付土器１点・蓋１点
48	3.19	株式会社　武揚堂	「'99年日本カレンダー」に掲載のため	甲府城外観１点
49	3.25	明野村教育委員会	明野村埋蔵文化財センター常設展示用写真パネルの制作のため	天神遺跡住居址写真２点・住居址遺物出土状況２点・土壙群写真１点・翡翠大珠２点、花鳥山遺跡縄文土器１点・炭化物付着土器１点、郷蔵地遺跡敷石住居跡写真２点・敷石住居址遺物出土状況１点、金生遺跡住居址２点・石組２点・配石２点・土壙１点、向河原遺跡水田址１点、甲ッ原遺跡縄文土器１点、酒呑場遺跡住居址１点、上の平遺跡方形周溝墓群１点、身洗沢遺跡又鍬出土状況１点、銚子塚古墳全景写真１点、稲荷塚古墳馬具（轡）１点

5．調査研究課課内研究グループ

本年度は５部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行った。

縄文部会　縄文部会では、これまで集成してきた県内出土の縄文土器の時期ごとの分類・再編成を行った。現在中期初頭まで作業が進んでいる。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引き”を作成することを目的としており、そのために報告書ごとに縄文土器を分類しつつ集成を試みたものである。集成の方針としてはできる限り完形品を掲載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創期・早期などは資料が少なく、現状での分類・再編成はなかなか困難であるが、とにかく山梨県内での流れを一目でわかるようなものをつくっていきたいと考えている。近いうちに、県内担当者に配布できるものを仕上げる心づもりである。

古墳部会　当部会では昨年に引き続き、1990年に八代町教育委員会から刊行された「遺跡詳細分布調査報告書」をもとに、古墳に関するデータカードの作成を行っている。本年度は八代町の古墳に加えて、今年度発掘調査を行った境川村諏訪尻遺跡の古墳なども対象にデータの収集にあたった。天候に恵まれず、古墳の現状調査が滞る傾向にあるが、データを急速に蓄積し、いち早くカードが公開できるよう努力しなければならない。

中・近世部会　当部会は、一昨年度からの研究テーマである「山梨における中世土器の考古学的編年の確率」にむけて、作業を進めている。今年度は、地域差が著しいことを考慮し、県内を６地域に分けて各担当ごとに資料を収集し、編年一覧の骨組みを構えることを目的としてきた。資料収集として編年上重要な共伴する遺物として、常滑・灰釉陶器・志野などの陶磁器や内耳土器なども含めて行っている。現在、鎌倉時代の様相及び戦国時代後半の実態はつかめているものの、14～15世紀の資料の検討が今後の課題である。

実験考古学研究部会　遺構・遺物等の解釈について、「実際に製作するなどの方法によって解明すること」を目的に活動している本部会では今年度の研究課題として、「古代製鉄技術の復元」を選択した。具体的には先学の復元実験例などの検討を基に、自作の製鉄炉による鉄の製作実験を実施し、操業記録を行った。今年度は古代製鉄技術における精錬段階に終止したために、今後は鍛冶作業～製品製造の工程について取り組んでいきたい。

考古教材研究部会　当部会は、センターに文化財主事として赴任した公立の中学校、及び高等学校の教員10名と専門の文化財主事１名で構成されている。今年度の研究活動として、月に一度の研究活動、学校現場（県内小・中・高等学校）向けの遺跡だよりの作成を行った。また、山梨大学附属中学校及び甲府市立東中学校からの要請により、中学校社会科の授業に当部会の文化財主事１名が参加し、ティームティーチング形式の授業を行った。

6．遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された発掘調査の内容を一般県民に広く知っていただくため、山梨県考古学協会と共催で年２回の遺跡調査発表会を実施している。例年のごとくスライドをまじえた口頭発表に加えて出土遺物や写真などの展示も行った。以下概要を述べる。

1997年度上半期遺跡調査発表会（11月１日（土）　於：県立甲府第一高等学校　約100名参加）

１．塩瀬下原遺跡　大月市梁川町塩瀬842-2外［当センター：吉岡弘樹］40ページ参照

２．南大浜遺跡　北都留郡上野原町鶴川字日野道1060外［当センター：笠原みゆき］42ページ参照

３．西原遺跡　東八代郡境川村小山字西原［境川村教育委員会：野崎進］
縄文時代前期から中期の住居跡12軒・土坑等、弥生時代後期の住居跡５軒、方形周溝墓６基が発見された。また縄文時代早期の大形土器破片も出土している。

４．牧洞寺古墳　山梨市上岩下1506-80外［山梨市教育委員会：三澤達也］
直径16mの円墳で周溝等の外部施設は存在しないことを確認した。遺物は石室前庭部より須恵器片が出土した。

５．塩川下河原堤防遺跡　韮崎市中田町中条1830外［塩川下河原堤防遺跡発掘調査団：畑大介］
近世から明治期にかけての堤防で、木枠や梯子土台等が良好な状態で出土するなど当時の工法が明らかにされた。

1997年度下半期遺跡調査発表会（３月14日（土）於：石和町立図書館　約120名参加）

１．後呂遺跡　東八代郡中道町右左口字後呂3143外［中道町教育委員会：林部光］
縄文時代中期の住居跡12軒、弥生時代後期末から古墳時代の住居跡６軒・溝状遺構５条、後期古墳１基等が発見された。

２．石之坪遺跡　韮崎市円野町上円井［韮崎市教育委員会：閏間俊明］
縄文時代の住居跡約55軒・土坑100基以上が発見され、継続的に居住活動が行われたことが明らかになった。また平安時代の住居跡約30軒も確認された。

３．諏訪尻遺跡　東八代郡境川村藤垈字諏訪尻3883外［当センター：坂本美夫］36ページ参照
縄文時代前期末の住居跡１軒、弥生時代後期末から古墳時代前期の住居跡24軒・方形周溝墓１基・円墳２基が発見された。円墳の周溝からは鉄剣が出土した。

４．岩殿城跡　大月市賑岡町岩殿字西山52番地外［大月市郷土資料館：杉本正文］
竪穴状遺構が発見され、瀬戸・祖母懐の茶壺など多数の良好な資料が集中して出土した。

５．甲府城跡　甲府市丸の内１番地内［当センター：宮里学］25ページ参照
城内各地点からは門跡・建物跡・石垣等の遺構が確認され、遺物は金箔瓦を含む多量の瓦・土器類・鉄・石製品等が出土した。また線刻画なども発見された。

上半・下半期の発表会をとおして各発表者には、発表の際一般の人たちにも分かるように努めて頂いた。また上半期においては甲府市内の高等学校を会場とし、一般県民に加えて学生も参加できるよう努めた。

7．山梨の遺跡展'97

本年度、当埋蔵文化財センターおよび市町村教育委員会が実施した発掘調査の出土資料やその成果を、いち早く一般に公開することを目的に、当センター主催で実施した。

開催は平成10年３月14日から４月５日まで県立考古博物館特別展示室で行い、入場は無料とした。展示内容は、①企画展示（「埋葬の変遷」）、②個別展示（埋蔵文化財センター展示）、③市町村展示、④パネル展示、⑤新聞パネル展示の５本を柱とした。①では、本年度当センターが行った発掘調査の中で「埋葬の変遷」に焦点を当て、伊保水・下西畑・甲ツ原・横針・桂野・石橋北・南大浜・石和高校周辺・塩瀬下原の９遺跡が発掘資料やパネルによる展示を行った。②では、本年度当センターが行った発掘調査の中で、①に関係しない個別の成果を、甲ツ原・桂野・諏訪尻・甲府城・大林上・石橋北屋敷・塩瀬下原の７遺跡が展示を行った。③では、大泉村（甲ツ原遺跡）・韮崎市（石の坪遺跡）・櫛形町（鋳物師屋遺跡）・一宮町（慈眼寺）の各教育委員会より発掘資料を借用し、展示を行った。④では、長峰砦・富士見一丁目の２遺跡を中心に、遺構写真や全体写真を用いて視覚に訴える展示を行った。⑤では、埋蔵文化財や発掘調査に関する本年度中の新聞記事をパネルを用いて紹介し、その重要性の理解を訴えた。

全体としては、18遺跡300点以上の資料を展示し、「埋葬の変遷」に焦点を当て、本年度の発掘成果を通して、埋蔵文化財への理解及び郷土への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

8．第９回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村教育委員会等に勤務する埋蔵文化財専門職員の技術・知識の向上を目的とする『市町村埋蔵文化財専門員研修会』を例年通りに開催した。

第９回を迎えた今回の研修会は平成10年１月27日に山梨県立考古博物館風土記の丘研修センターを会場に実施した。今回のテーマは「山梨周辺域における弥生時代中期の様相―土器を中心として―」とし、講師には石川日出志先生（明治大学文学部教授）をお迎えした。

山梨県の弥生時代中期の様相は、過去に調査事例が少なく断片的に把握する程度の状態で、その様相が明らかとなりつつある隣接県とは対照的であった。しかし近年の開発行為に伴う発掘調査の増加は、本県の該期資料の蓄積を飛躍的に伸ばし、改めてその内容を検討する時期が到来したといえよう。このような状況下、該期の研究者である石川先生に県内で出土した新たな資料を実見していただき、周辺地域を考慮しながら本県の様相について講演していただいた。講演は最初に弥生文化の概要を、次に山梨周辺地域の様相を、最後の既出資料及び、当日実見していただいた最新資料を基に県内の様相についてお話しいただいた。いずれも、先生の研究成果と最新の情報を採り入れたもので、内容の濃いものとなった。とくに、該期の土器については先生の編年に基づき、図版や実物を用いて詳細に解説していただき、中期初頭には甲府盆地南部曽根丘陵を中心に、多摩丘陵周辺まで分布する独自の土器群が存在すること、中期後葉、甲府盆地富士川水系と県東部桂川水系の遺跡で出土する土器は両者はもちろん、周辺地域とも異なる様相を呈していることを指摘し、その遺跡の性格にも言及され、本県の該期様相に新たな知見を数多く得ることができた。

9．調査研究課課内研修

調査研究課では、職員の知識向上のために月１回程度の割合で課内研修会を開催している。本年その研修会の内容は下記の通りである。

	日　時	講演・発表テーマ及び発表者	概　　要
1	1997.4.30	発掘調査における衛生管理 石原準子氏　福利給与課 発掘調査における安全管理 八巻與志夫　当センター	発掘現場における救急措置、及び安全で効率のよい作業のあり方を考える
2	1997.5.30	震災復興調査の様子２「そして神戸」 小林公治　当センター	支援職員として復興調査に参加しての報告
3	1997.6.30	出土品の取り扱い方について 佐野隆氏　明野村教育委員会	文化庁主催の会議に参加しての報告
4	1997.8.29	インターネットの利用とは 村石真澄　当センター	山梨県の考古に関する情報公開のあり方
5	1997.9.30	甲府盆地の古環境　各遺跡の花粉・珪藻分析成果をふまえて パリノサヴェイ（株）考古学研究室	自然科学分析を活用した遺跡発掘のあり方を考える
6	1997.11.28	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財発掘技術者専門研修「信仰関連遺跡調査課程に参加して」 高野玄明　当センター	考古学の立場から宗教儀礼等の諸問題について考える
7	1998.1.29 ～30	初歩からの写真撮影 塚原明夫氏	完形土器・破片遺物の撮影技術の講習
8	1998.2.27	四川省の発掘調査について 王魯茂氏　四川省文物考古研修所	中国の遺跡調査のあり方について

10. 寄贈・購入図書

今年度の当機関で登録された図書数は、約3,600冊である。現在、38,000冊におよぶ蔵書数があり、来所される方々や職員に幅広く活用されている。ここで所蔵する本は、全国各県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要や、博物館・資料館などの企画展・常設展示図録が主体である。この他、考古学・歴史の概説書や専門書、および民俗関係の書籍も多数所蔵している。また、今年度は、大塚初重所長より縄文時代を中心に文献・報告書約1,600冊を寄贈して頂いた。今後、幅広く活用できるよう整理していきたい。

11. 海外研修生受入事業

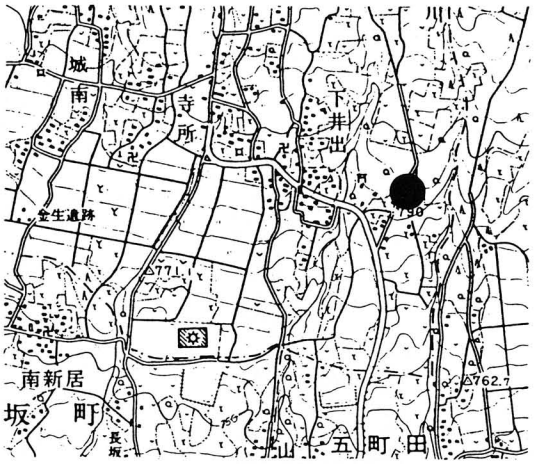
山梨県（主管国際課）が毎年実施している姉妹省等からの海外技術研修生受け入れ事業に基づいて、他の機関の協力をいただいて、中国四川省考古研究所考古隊長王魯茂氏（40才・男）を、７月１日から３月中旬までの約９ヶ月間受け入れた。

研修期間の当初に日本や山梨県の歴史・地理を教授した。発掘現場では、７月15日から９月５日まで境川村諏訪尻遺跡で古墳時代集落の調査や地形・遺構などの測量技術を中心に、９月８日から10月９日まで甲府城跡でその調査や修復について、10月13日から12月11日まで甲府市富士見一丁目遺跡で江戸時代や弥生時代における水田の調査や測量技術について研修した。１月20日から１月30日までは帝京大学山梨文化財研究所で、鉄製・青銅製や木製などの出土品の保存処理技術と理論を修得した。その後、３月中旬までは甲府市里吉整理室や埋蔵文化財センターで土器や石器の実測など発掘整理について研修した。この間奈良国立文化財研究所をはじめ国立歴史民俗博物館、長野県森将軍塚古墳など県内外の研究・展示施設や復元された遺跡を視察し、また京都・奈良・広島などへの研修旅行も行った。一方、中国長江中流に建設される三峡ダムのために水没する文化財の保護についての講演を埋蔵文化財センターでしていただくなど、文化交流使節的な役割をも果たしていただいた。日本の文化財保護や、近年長江流域における古代文明が注目されるようになった折、王氏の研修テーマ「日中考古学の比較研究」は、当センターにとっても有意義なものであった。

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要

1．甲ツ原遺跡（かぶつっぱら）

所 在 地　北巨摩郡大泉村西井出字和田・字大林8853他
事 業 名　一般道須玉・八ヶ岳公園線建設
調査期間　1997年５月19日～８月28日（第７次調査）1998年３月３日～３月26日
調査面積　約610㎡、約270㎡（現道部分の調査）
担 当 者　山本茂樹・川手昌英・渡辺泰彦



甲ッ原遺跡　位置図

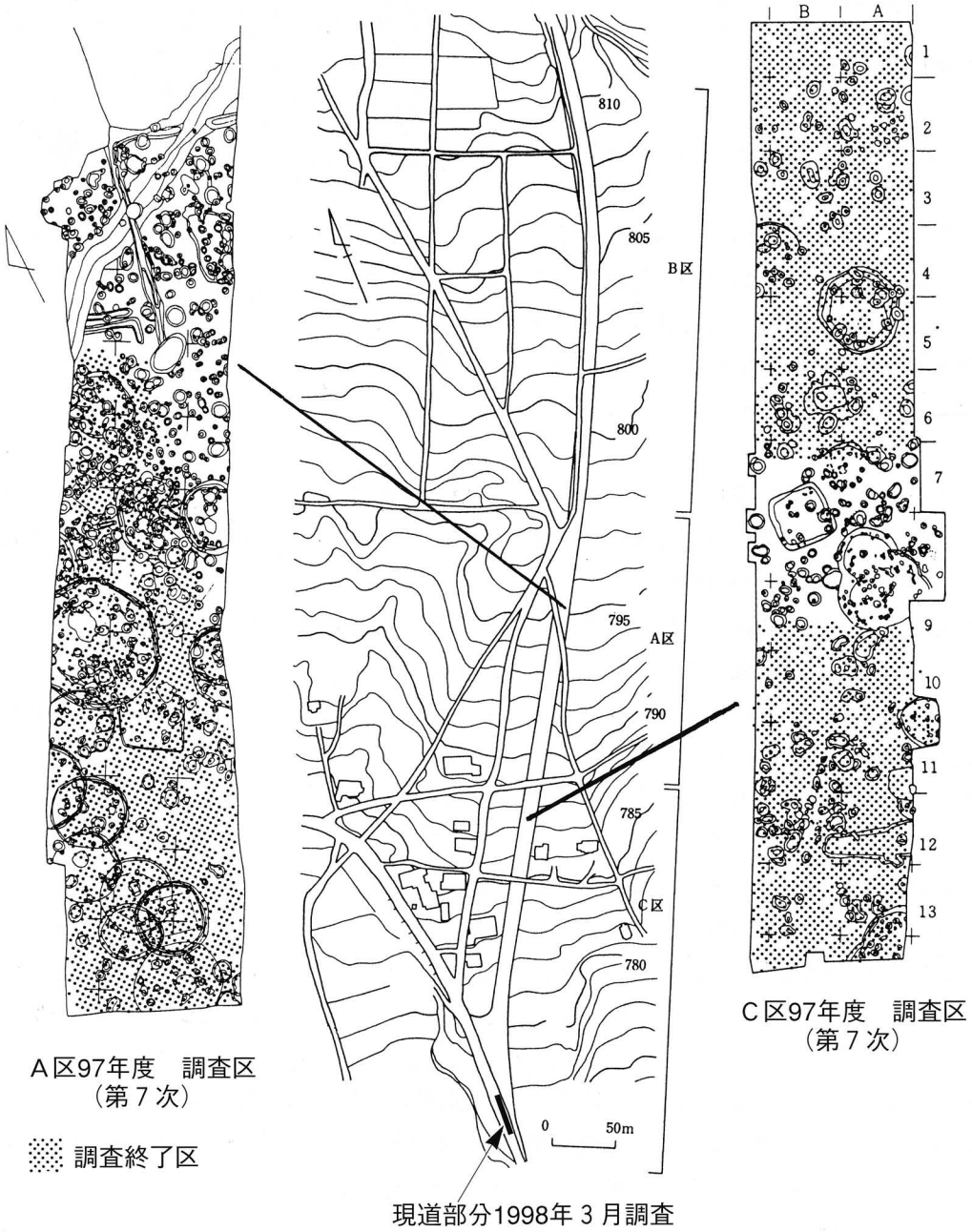
甲ッ原遺跡は、北巨摩郡大泉村に所在し、緩やかに傾斜した八ヶ岳南麓の尾根上に立地している。周辺は、八ヶ岳中腹あたりに湧水地から流れる甲川と油川に挟まれた舌状台地となっており、標高は790m前後を数える。

本遺跡は、一般県道須玉・八ヶ岳公園線の建設に伴い、1989年度に第１次発掘調査が行われ、本年度の第７次発掘調査をもって遺跡発掘調査は全て終了した。

周辺の遺跡には、天神Ｃ遺跡、寺所遺跡、御所遺跡、金生遺跡、姥神遺跡など縄文時代を主体とする遺跡が数多く存在している。

本年度の発掘調査対象地は畑および山林で、未買収地であったためこれまで調査ができなかった場所で、三地点にまたがっている。したがって南側地点から順にＣ区、Ａ区、Ｂ区と区分けし、５ｍ×５ｍグリッドで調査を行った。調査面積は約610㎡である。

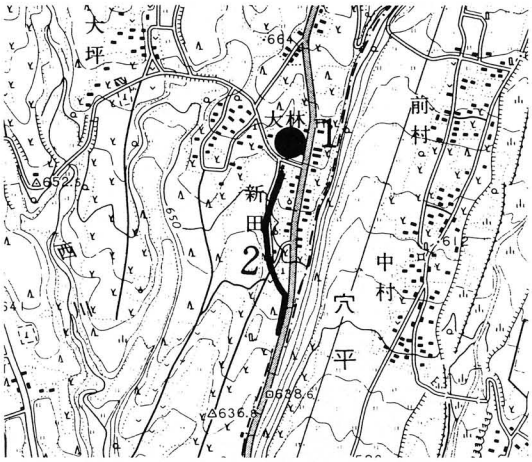
Ｃ区については、住居跡が６軒発見された。縄文時代の住居跡が５軒で、平安時代の住居跡が１軒である。縄文時代の住居跡の内訳は中期初頭３軒、中期の中頃１軒、中期後半１軒である。土坑は10数基確認され、時期は縄文時代がほとんどである。遺物については、土器片が豊富に出土し、特に55号住居跡からは、浅鉢等が発見された。完形個体は少ないが、復元可能な個体は数多いようである。Ａ区については、縄文時代の住居跡が４軒発見された。その内訳は、中期の中頃２軒、中期後半１軒、時期不明のものが１軒である。また、今までの調査で確認されていた旧河道も発見された。遺物については、50号住居跡から、胴下半部と胴部半分を欠損する両耳壺の埋甕が見つかり、本遺跡の埋甕としては初めてである。またこの住居跡からは、入口部付近に石棒が出土し、頭部を南に向け、横倒しの状態で発見された。Ｂ区については、住居跡や土坑は見あたらなかったが、時期不明の溝が北から南へのびていることが明らかになった。また３月３～26日までの調査では、住居跡１軒・土坑１基が確認された。



甲ッ原遺跡　97年度（第７次）調査遺構図

2．大林上（おおばやしかみ）・大林（おおばやし）遺跡

所 在 地　①大林上　北巨摩郡高根町箕輪2604外
　　②大林　北巨摩郡高根町箕輪3151外
事 業 名　国道141号（箕輪バイパス）建設工事
調査期間　1997年５月12日～８月12日
調査面積　①1,700㎡　②1,250㎡（7,770㎡）
担 当 者　田口明子・渡邊泰彦



大林上・大林遺跡　位置図

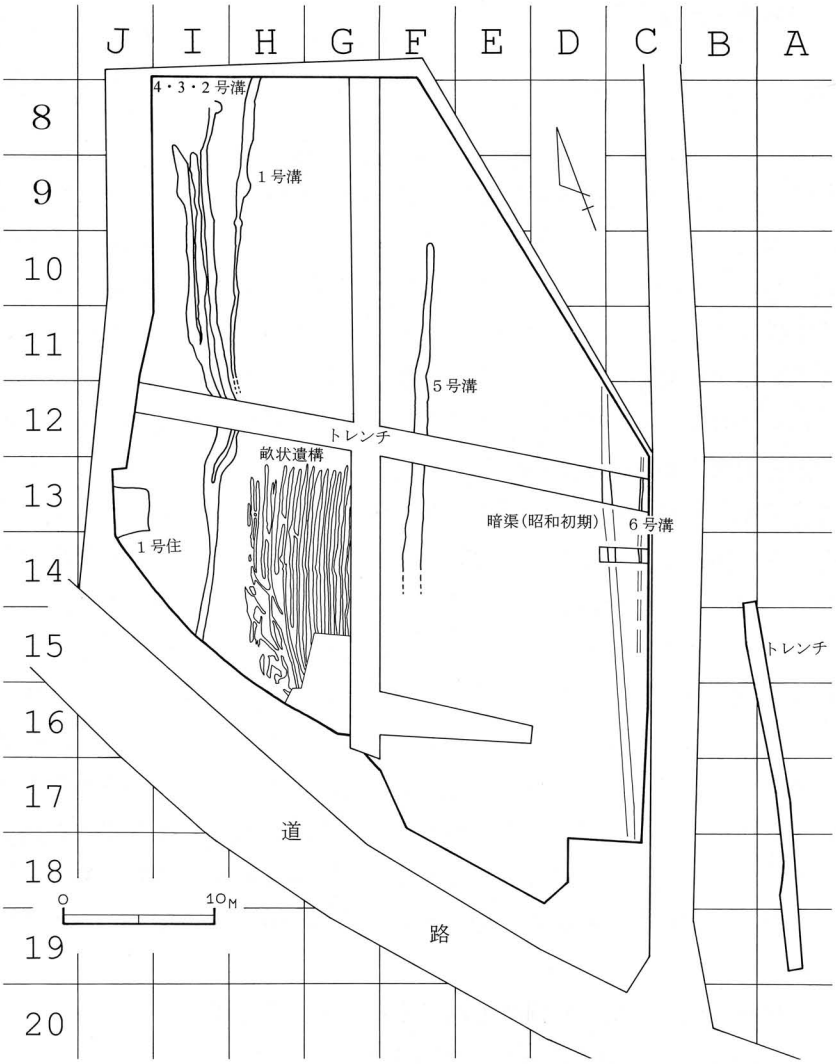
①　大林上遺跡は八ヶ岳東南麓の台地上、標高665ｍ付近に立地し、すぐ東側を須玉川が南流する。1995年度に本遺跡の北に隣接する大林上遺跡の調査が行われ、平安時代竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡数棟、土坑100余基、溝跡２条が確認された。そして、本調査区内の北側部分の試掘調査も行われ、２本のトレンチから古墳時代の土師器片少量と黒曜石の剥片１点が出土した。関連する遺構は確認されなかったが、いずれの土器も磨滅がほとんど見られず、またすでに調査された遺跡の南に隣接することから本調査されることとなった。

調査区の原地形は北から南へ緩やかに傾斜している。遺構確認面及び遺物包含層は地表から30～90㎝下の黒色土層である。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡１軒、溝跡６条、焼土跡２基、畝状遺構、昭和の初めに掘られた暗渠１条が確認された。出土遺物は縄文、古墳、平安時代と近世の土器片、陶磁器片が大多数を占め、石器が少量混じる。近世の遺物の多くが攪乱層からの出土であるのに対し、その他のものは１～５号溝の周辺に集中する。しかも出土した遺物は磨滅していることから、そのほとんどが流されてきたものと考えられる。

１号住居跡は西側が調査区外に延びるが、南北約300㎝で方形のプランをもつ。カマドは東壁のほぼ中央に構築されており、支脚の石が立ったままの状態で出土した。壁は攪乱によって削られており遺存状態は悪いが、土層の観察から20㎝以上あったことが窺える。遺物は床面から灰釉陶磁碗、内面黒色土器坏・皿、土師器坏の４点が出土した。また住居の北東コーナーでは、より凹凸の少ない面を上面とする十数個の石が東西約100㎝、南北約70㎝の範囲に確認された。これらの石の下には長径130㎝×短径85㎝、深さ約50㎝の土坑が確認されたが、遺物の出土はなかった。

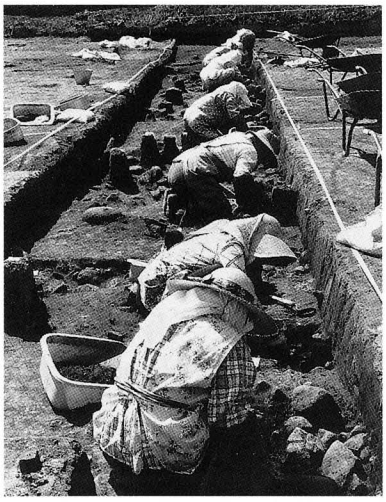
溝は原地形の傾斜に従い、全てが南北方向に走る。１～５号溝には砂の堆積が認められることから水の流れのあったことが考えられ、どれもが黒色土層を掘り抜くことはない。しかし、２～４号溝が合流するⅠ-13地区以南の溝と６号溝はローム層まで掘り込まれ、この両者が畝状遺構を挟んでいることから、根切り溝と判断した。畝状遺構の東側半分は攪乱のため検出できなかった。これら根切り溝と畝状遺構は中世以降のものと考えられる。

② 全長約600mの道路用地内に試掘トレンチを44本設定し、遺構・遺物が確認された場合には拡張して調査を行った。その結果、縄文時代中期及び近世を中心とした遺物が出土したほか、7本のトレンチから溝状遺構10条と土坑9基が確認された。しかし遺物を伴った遺構は、炭化材と釘のような鉄片が出土した42トレンチの1号土坑以外になく、また遺物のほとんどが苦練りと呼ばれる、田を造成する際につき固められた粘土層からの出土であった。これらの結果と今回の調査範囲が傾斜地を削平した土地であることを考え併せると、これ以上の調査の必要はないと判断される。

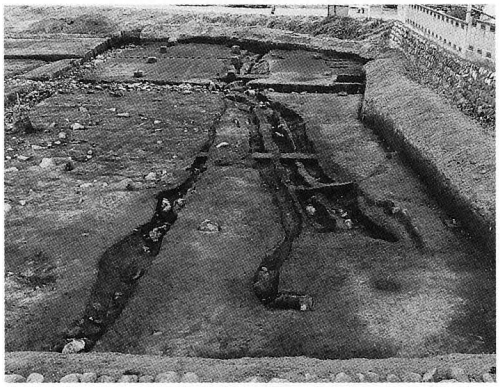


大林上遺跡　全体図

大林上遺跡　１号住居跡（西から）



大林上遺跡　調査風景



大林上遺跡　１～４号溝（北から）

大林上遺跡　畝状遺構（南から）

大林遺跡　42トレンチ（ベルト右側中央が１号土坑）

大林遺跡　調査風景

3．米山遺跡（よねやま）

所 在 地　北巨摩郡長坂町大八田字米山6811-248外

事 業 名　中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア改築工事（下り線）

調査期間　1997年10月13日～12月25日

調査面積　1,000㎡

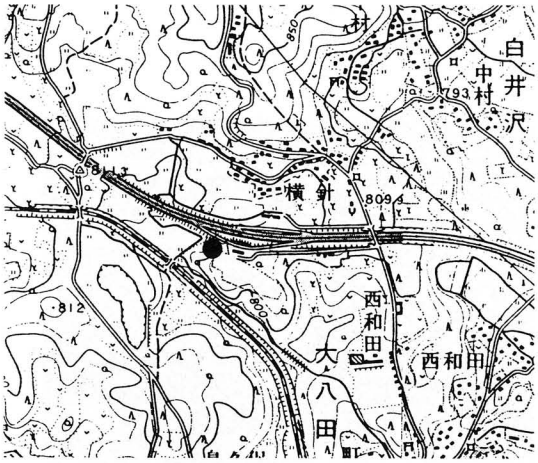
担 当 者　村石眞澄・清水裕司

本遺跡は、横針遺跡の南約100ｍのところに位置する。標高はおよそ800ｍであり、調査の結果、埋没谷であり、遺構は認められなかった。

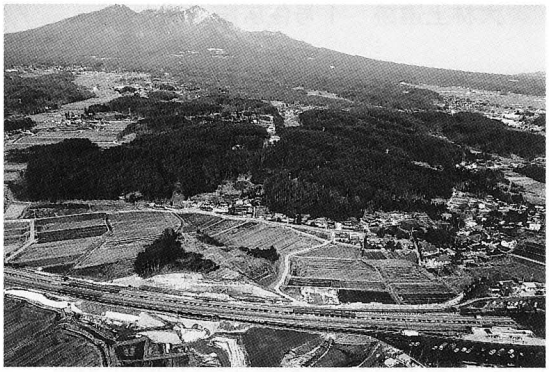
この埋没谷は東に向かって深くなるのに対し、原地表面はこれと逆に西に向かって傾斜している。基本層序は、上から表土／黒色土／黄褐色土［地山に酷似］／暗灰黄色土／ローム土（地山）である。特徴的なのは、地山に酷似した黄褐色土層（厚さ約10～20㎝）が調査区ほぼ全域にわたって認められたことである。この谷の形成と埋没については、遺物包含層とも関連し注目され、目下検討中である。

焼土のまとまりが遺跡全体で７カ所から検出されたが、住居跡や炉などの遺構とは認められず、これに伴う遺物も発見できなかった。

遺物は土器を主体としておよそ1800点あり、縄文時代早期末（条痕文系）・前期後半（諸磯式）・中期・後期（称名寺・堀之内式）・晩期～弥生時代前期（条痕文系）のものであった。その他には、石鏃・石匙・打製石斧などの石器も出土した。特に弥生時代前期と思われる口唇部に貝殻背圧痕文のある土器は、標高が高く自然が厳しい本地域でいかに人々が生活していたのか、大変興味深い内容を含むものである。



米山遺跡　位置図

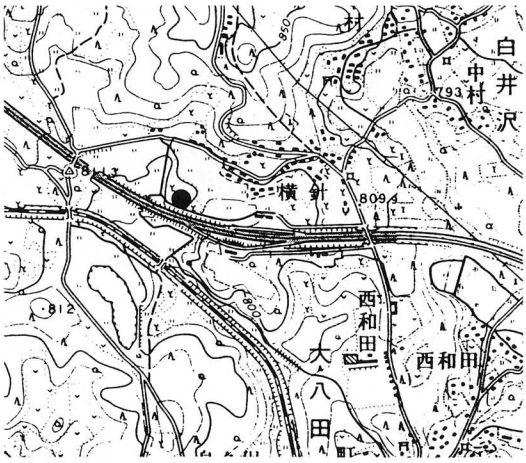

米山遺跡と八ヶ岳　遠景

米山遺跡と横針集落　遠景

調査風景

4．横針（よこはり）遺跡

所 在 地　北巨摩郡長坂町白井沢字横針1751-1外
事 業 名　中央自動車道八ヶ岳パーキングエリア改築工事（上り線）
調査期間　1997年８月18日～10月31日
調査面積　1,000㎡
担 当 者　村石眞澄・清水裕司



横針遺跡　位置図

横針遺跡は、八ヶ岳の裾野の南斜面にいくつかの小さな丘や谷頭状に発達した地形の標高約800m付近に位置する。地元では、通称「中山」という小規模な独立丘陵上の南東斜面に立地している。

調査の結果、鎌倉～室町～戦国時代の地下式土坑９基、集石遺構２基、集石を持つ土坑７基、土坑・ピットなど約900基を発見することができた。この中でも注目すべきものをいくつか述べていきたい。

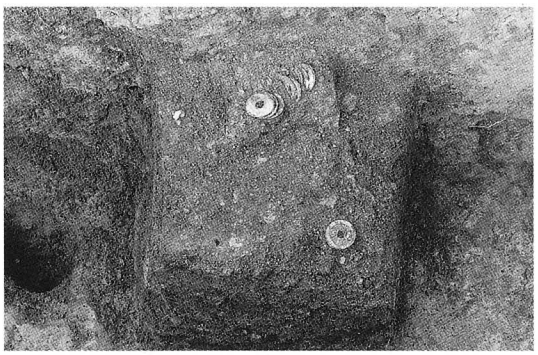
まずSX３地下式土坑である。直径約2.5mのほぼ円形で、深さは最深部で約1.6mである。覆土はローム地山からなる崩壊した天井部の間に黒色土層などを混じえるものであった。また、この土坑からは青磁片１点と北宋銭（天聖元寶：初鋳1023年）１枚、土師器数点が出土しているが、天井部の崩壊に伴って流入した可能性が高い。

次はSP110土坑であり、これは中世の墓であると思われる。平面形は長方形でおよそ長軸2.3m、短軸1.2mで壁際に直径約10cmの４対計８個の小ピットが並んでいた。また遺物としてはカワラケ１点、唐銭（開元通寶：初鋳960年）、北宋銭（元豊通寶：初鋳1078年、聖宋元寶：初鋳1101年）などの古銭32枚が出土した。覆土はロームブロック（φ10mm大）混じりの暗灰黄褐色土であり、人為的に埋められたと判断した。他の長方形または楕円形など主軸の認められる土坑はそのほとんどは北西軸もしくは北東軸であった。

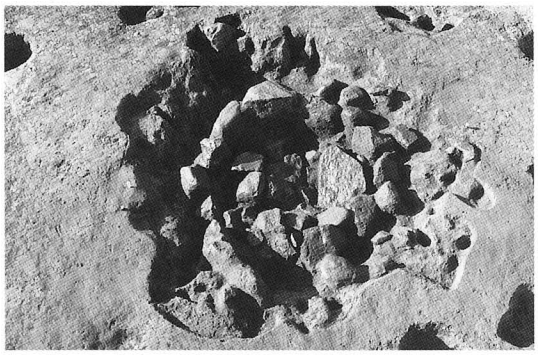
この他にもSP106土坑内の石は中心を取り囲むように丁寧に置かれていた。この土坑からはクギと思われる鉄製品が１点出土した。またSP62土坑からは、北宋銭３枚（天聖元寶：初鋳1023年、皇宋通寶：初鋳1038年、政和通寶：初鋳1111年）が出土した。これは埋葬に関わっていると思われる。さらにSX１遺構は一辺が約3.5mのほぼ正方形をしたものであったが、土層は暗灰黄色土が下層にあり、その上に細礫混じり褐灰色粘土ブロック（φ30mm大）の人為的埋め戻しとも考えられる堆積で覆われていた。天井部と考えられる堆積は確認できなかった。この遺構からは、聖宋元寶が１枚出土しただけであった。

本遺跡の地下式土坑は平面形が近隣の小和田館跡や金生遺跡に見られるような方形でなく、大部分が円形で、また入口部が本体から独立しておらず、形態的に大きな差異があることが特徴的である。

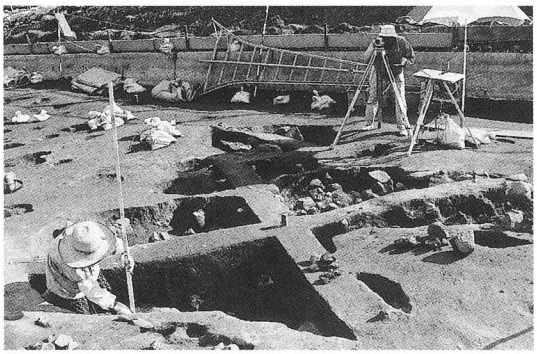
SP110 土坑



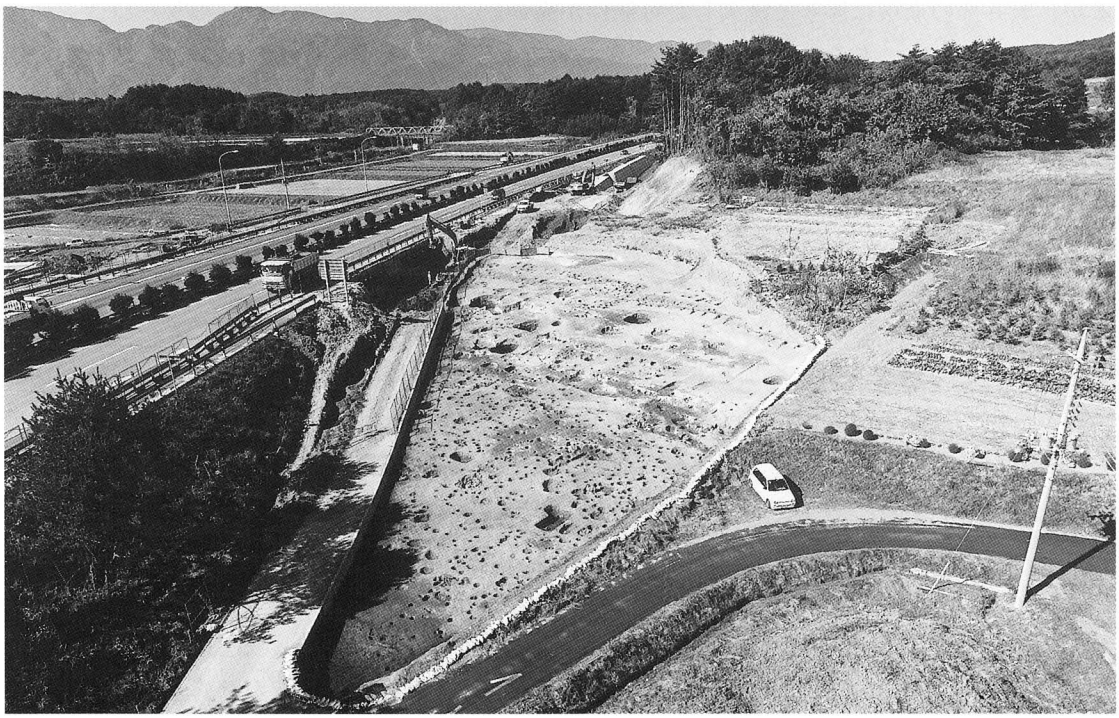
SP110 土坑　古銭出土状態



SP106 土坑



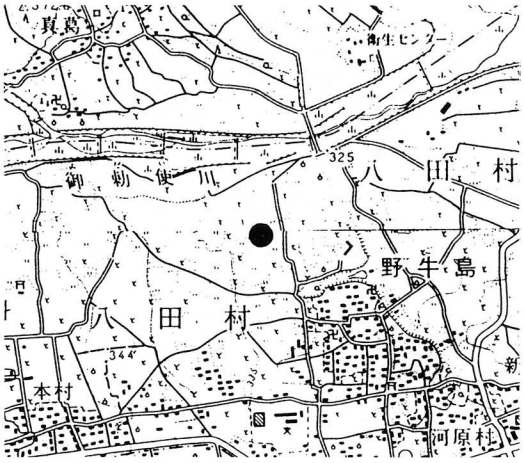
調査風景



横針遺跡　全景（東方から）

5．石橋北屋敷遺跡（いしばしきたやしき）

所在地　中巨摩郡八田村野牛島字石橋
事業名　一般国道52号改築工事
　　中部横断自動車道建設工事
調査期間　1997年10月28日～1998年１月30日
担当者　新津　健・﨑田　哲・依田幸浩
調査面積　3,000㎡



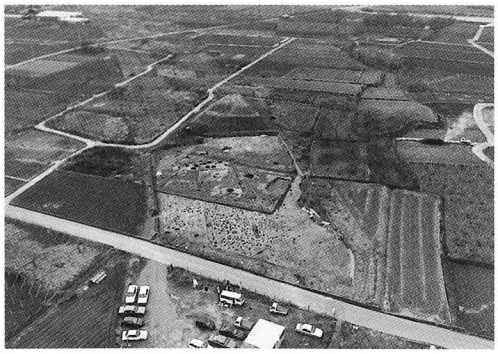
石橋北屋敷遺跡　位置図

本遺跡は、御勅使川扇状地北端の標高328ｍを測る緩傾斜面上に位置する。北側200ｍには現御勅使川が流れ、その北側には竜岡台地がある。近辺には赤山遺跡（縄文）・大塚遺跡（古墳～平安）が存し、遺跡の宝庫でもある。今回の調査区域周辺には古く野牛島の集落があったとされ、特に地元では「北屋敷」と呼ばれている。現在に地形から、堀跡と考えられる場所が確認でき、また農地として利用されている区画の中に不自然な「鈎の手」も見受けられる。御勅使川は戦国大名武田信玄の治水事業が行われたともいわれていることから、一帯の水利権に深く関与した権力層の屋敷及びそれを取り巻く集落が確認できるのではないかと期待した。

今年度の調査では、村道47号線西側の約3,000㎡にわたって、地表面下約１ｍの層から遺構・遺物が検出された。内訳として区画溝３、道路側溝と思われる溝２、人骨３、古銭20、住居跡４、井戸１と、その他に土坑群、土器、石臼等がある。土器については非常に薄い一層の中に縄文晩期から戦国期に到るものが、また住居についても平安時代のものが確認されたが、区画溝と溝底から検出された内耳土器や石臼、人骨及びこれに付随して出土した銭は全て戦国期のものと考えられている。

検出された区画溝は、現在の農地の区画と整合性が認められるが、このことは現在の区画が中世以来の土地利用を踏襲していることを示しているものとして興味深い。

来年度以降、今回の調査区域の西側を更に調査するが、上述の堀跡と思われる地形や不自然な「鈎の手」は、来年度の調査予定区域に含まれるため、今後にかかる期待は大きい。


石橋北屋敷遺跡全景

２号人骨検出状況

6．八田畑（はったばた）遺跡

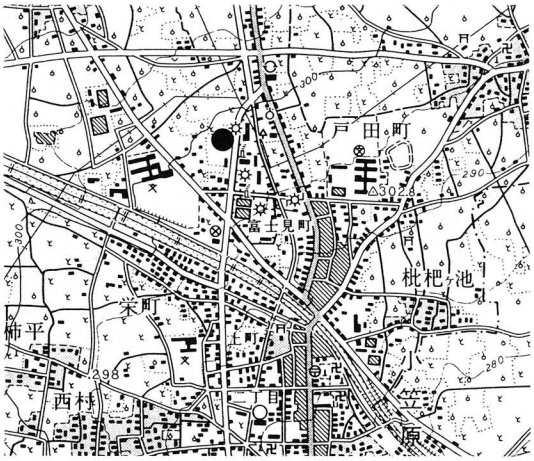
所在地　中巨摩郡櫛形町小笠原字八田畑1231-1外

事業名　県営住宅櫛形小笠原団地建設工事

調査期間　1997年５月６日～９月６日

調査面積　2,600㎡

担当者　小林健二・市川恵子・清水裕司・依田幸浩



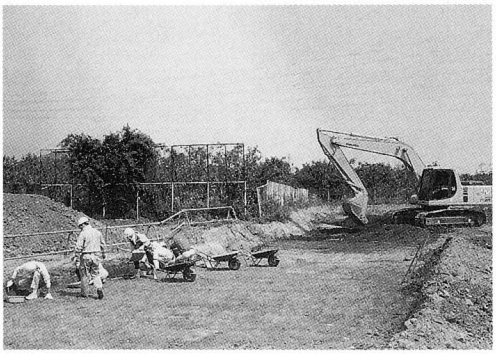
八田畑遺跡　位置図

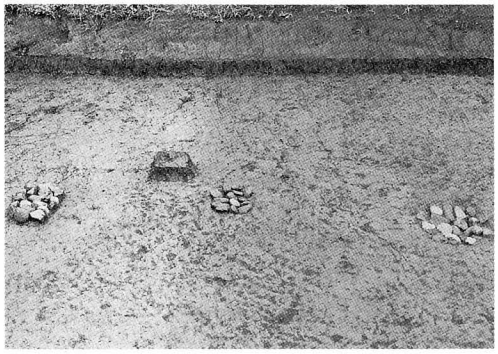
甲府盆地の西部、櫛形山を水源とする市之瀬川（坪川）・滝沢川などの諸河川は、御勅使川の形成する扇状地とともに複合扇状地を造っている。八田畑遺跡はこれら扇状地の扇央部に位置し、標高は298m前後を測る。

調査の結果、弥生時代前期から後期にかけての遺物包含層と、時期不明の根石状の集石遺構３基が確認された。調査区中央部は礫層で覆われており、自然の流路が確認されたのみで弥生時代の遺構は発見されなかった。

包含層（地表下80㎝前後）は調査区北側と南側に20～40㎝の厚さで堆積しており、出土した土器片は調査区南東部分に比較的まとまって分布していた。磨滅しているものが多く、氾濫により流されてきたものであり、該期の集落については本遺跡の北西側の台地に存在するものと思われる。集石遺構については、自然石を円形に並べてあり３基のうち２基については南北に並ぶものの、残りの１基はズレている。また東西方向には確認できず、建物になるかどうかはわからない。時期についても断定は出来ないが、近代以降のものであろう。

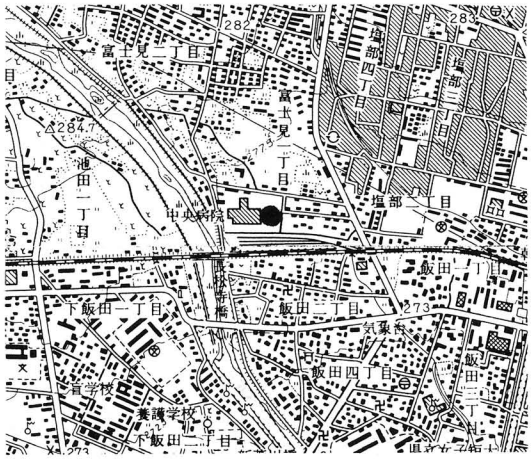
本県では弥生時代中期の遺跡はまだ少なく、立地や集落構造など解明できない部分が多い。今回の調査では明確な遺構は認められず、遺物の出土点数も少なかったが、該期の遺跡の立地を考える上で一つのデータを提供したことになろう。


調査風景


集石遺構

7．富士見一丁目遺跡（ふじみいっちょうめ）

所在地　甲府市富士見一丁目１―１
事業名　県立中央病院建設
調査期間　1997年10月１日～12月25日
試掘調査　1998年２月２日～３月４日
調査面積　2,640㎡（880㎡×３面）
試掘面積　518㎡(6,000㎡)
担当者　保坂一英・高野玄明・雨宮芳夫



富士見一丁目遺跡　位置図

金峰山を水源とし、甲府市街を南下する荒川左岸の自然堤防上の標高275ｍ付近に本遺跡は立地する。本遺跡の対岸約0.5㎞には近世の水田跡が検出された東河原遺跡や、同じく左岸一帯には弥生時代後期～平安時代の集落が確認されている音羽遺跡や榎田遺跡、後期古墳など、周辺には遺跡が濃密に分布している地域である。今回の調査は、県立中央病院改築事業に伴って先年度に試掘調査を行い、その結果、平安時代～中世の遺物が検出されたため、本調査に到った。今年度の調査は、病院内南側駐車場部分を行い、文化層が３面に及び確認されている。

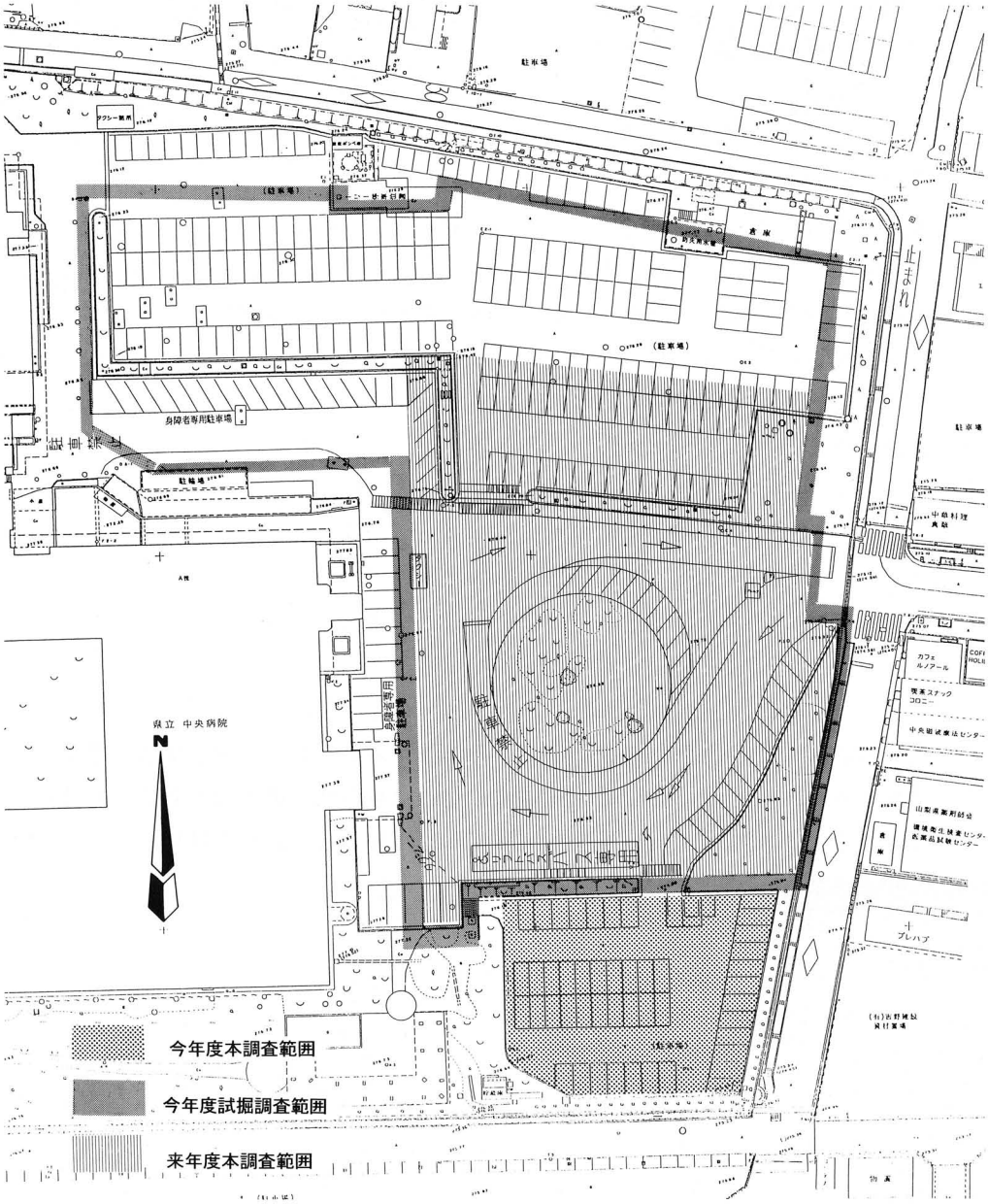
以下、確認された３面について概観してみたい。

第１面では、平行する等間隔の畝状の遺構が、調査区全体に２方向２形態のものが検出された。一つのタイプは、畝の間隔が狭いものと広いものとがみられ、方向も北西～南東方向と、北東～南西方向のものがみられる。一つのタイプは畝の高さ２～５㎝、幅20～35㎝、間隔10～25㎝、もう一つのタイプは、畝の高さ15～20㎝、幅30～65㎝、間隔20～85㎝を測る。出土遺物については、18Ｃ末の陶磁器片などが検出されている。

第２面においては、第１面と同様な形態・規模をもつものが検出されている。しかし、第１面ほど、明瞭な状況では検出されてはいない。これは、おそらく第２面の畝状遺構が荒川の氾濫によって削平されてしまい、新たに作り耕作し直したものが、第１面と考えられる。このことは、第１面と２面から出土している遺物からみても、ほとんど時期差は見られないことからも伺うことができる。

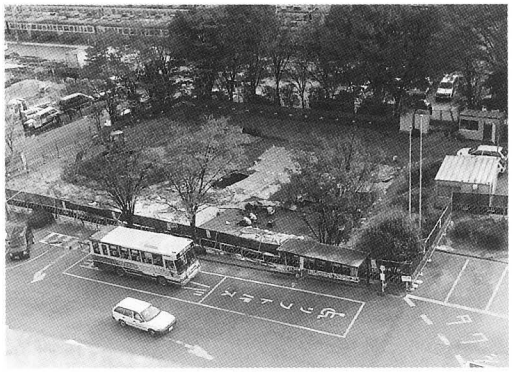
第３面については、調査区西側に北西～南東方向に落ち込みが見られ、この落ち込みと平行して畦畔が検出され、小区画の水田を構成している。落ち込みは10㎝ほど掘り込まれ、畝の高さは３㎝、幅30～40㎝で、17枚ほどが検出されている。水田の形態は、小型のもので長辺2.5ｍ、短辺1.2ｍ、面積3.0㎡を呈し、大型のもので長辺4.7ｍ、短辺1.5ｍ、面積7.1㎡を測る。水田面は、北～南に緩やかに傾斜している。各水田面には南北方向に水口が10～30㎝ほど見られる。しかし、水田面には遺物が全く見られないため、はっきりとした時代は不明であるが、水田面を構築している黒色土から、弥生時代後期～古墳時代前期と思われる台付甕の脚部が出土しており、水田の形態からみても該期の範疇に収まるものと考えられる。

今回の調査で、遺構が存在する３層から近世・近代の平行する等間隔の畝状遺構及び、弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡が検出された。第１・２面の畝状遺構については、前述した本遺跡対岸の東河原遺跡から同様な形態の遺構が検出されている。この遺構については、花粉分析の結果、水田跡であると報告している。本遺跡も、分析結果をみなければ詳細なことは解らないが、おそらく同様な結果がでると思われる。第３面の水田跡については、全体の規模は不明であるものの、非常に小型の水田であることや、甲府盆地内において初めての検出例であり、水田形態の変遷を知る上で貴重な資料を提供するに到った。

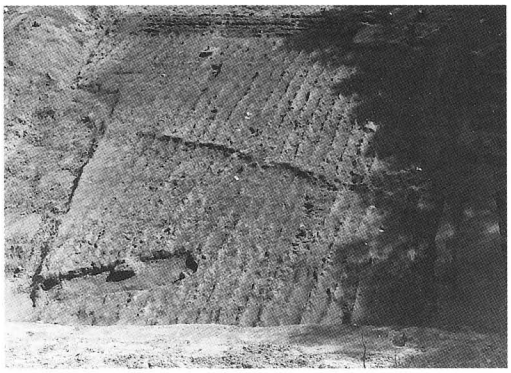


富士見一丁目遺跡　調査範囲（1／1,000）

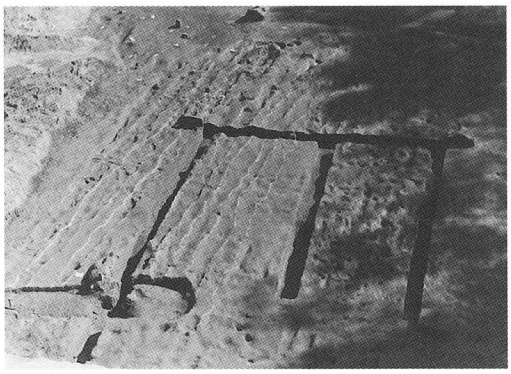
なお、来年度調査予定地内において試掘による範囲確認調査を行った。調査は、試掘トレンチを重機による掘削をおこない、作業員により精査を行った。調査の結果、北側駐車場の大部分は地下埋設物や地表下140～230cmにおいて白色砂層に湧水など全く安定した遺構確認面は検出できなかった。しかし、北側駐車場南側から中央ロータリーにおいては、今年度本調査を行った南側駐車場と同様の安定した遺構確認面が３面検出されている。第１面は地表下60～130cm程で確認され、これは南側駐車場の第１面と同一と思われる畝状の遺構の存在が確認されている。第２面は130～150cm程で確認され、これも本調査区の第２面にあたる。また、150～170cm程で確認されている黒褐色土については、南側駐車場で確認されている弥生時代～古墳時代前期の水田跡が検出されている土層と同一である。試掘調査の結果、約3,500㎡×３面において良好な遺構確認面が検出されている。遺物も、陶磁器や弥生時代の土器片などが確認されていることから本調査の可能性が認められた。



調査風景



第１面　畝状遺構検出状況

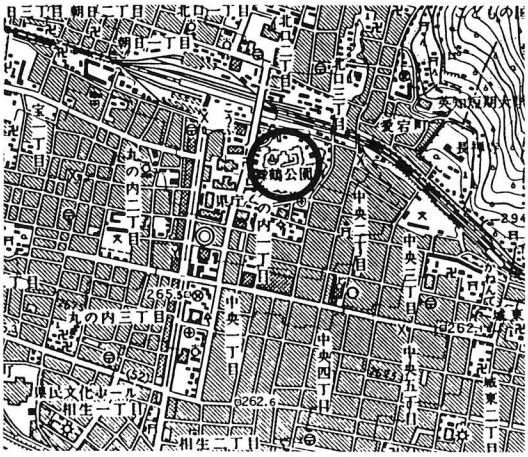


第２面　畝状遺構検出状況

第３面　「小区画水田」検出状況

8．甲府城跡（県指定史跡）

所在地　甲府市丸の内１丁目５番地内
事業名　舞鶴城公園整備
調査期間　1997年４月13日～1998年３月27日
調査面積　約8,200m²
担当者　八巻與志夫・深沢容子・宮里　学



甲府城跡　位置図

平成２年度より始まった県指定史跡甲府城跡の発掘調査も、本年度で８年目を迎えた。以下に本年度の調査の概要を曲輪ごとに報告したいと思う。

初めに本丸の調査について述べる。昨年度からの継続で、中央部の露出している岩盤の間を掘り下げて調査を行ったところ、金箔や朱のついた鯱瓦や桐紋の飾り瓦などを含む築城期の瓦が多数出土した。同時に、割りかけの石材や石を切り出した跡なども確認したが、残された石に、山鳥、魚、星形、井桁などの模様が刻まれていることがわかった。調査していくうちに、このような線刻画は城内各所の石垣や石切り場で確認することができた。これらは、陰陽道や方位に関係する呪符ではないかと思われる。

また、本丸南側は現在調査を中断しているが、これまでのところ、江戸時代初期のものと思われる鬼瓦が１点単独で出土している。

本丸北石垣の改修工事に先立つ調査では、腰石垣東端にある石段の基底部で礎石を２個確認した。これは、本丸櫓本体のものではなく、付属する階段の覆屋か塀に関係するものだと思われる。腰石垣解体後の調査では、裏から栗石を押さえるための石垣（裏石垣）が検出された。暗渠の袖石がこの石垣から前面に突き出していることから、腰石垣が積まれるまでの暫定的な石垣であったと考えられる。暗渠は、平成６年度の調査により確認されていたものであるが、今回の工事により一部が解体されるため、記録を作成し復元の資料とした。

次に鉄門周辺の調査について述べたいと思う。昨年度末、鉄門西下の石垣を解体した際、裏盛土中から金箔瓦が出土した。今年度継続して調査したところ、地山と盛土の境から、浅野時代の瓦が石垣の裏込め石の代用にされている状態で集中して検出され、その中より、金箔飾り瓦（鬼桐紋）が出土した。

また、鉄門階段の施工に伴い、近代になって設置された石段を除去し調査したところ、本丸で金箔瓦を含む築城期の瓦を覆っている盛土と同様の土が厚さ40cm程度確認された。さらにその下部より、築城期に設置されたと思われる幅2.3m、長さ５mの安山岩の石段が検出された。復元工事では、検出された石段は埋設保存し、江戸時代中期の石段を復元した。

天守台下を東から南にめぐる天守曲輪では、南側の腰石垣の調査で、小石を積んだ石垣（裏石垣）が検出された。本丸の調査概要でもふれたが、表に高い石垣を積むまでの暫定的なもの

ではないかと考えられる。

次に稲荷曲輪であるが、６月に曲輪北（事務所裏手）の調査に入った。絵図によれば焔硝蔵の建物があった場所であるため、関連する遺構の検出に努めた。曲輪北側の石垣天端を形成する土手の基底部から南側に幅３～４ｍ、東西70ｍにわたって調査を行った。その結果、瓦溜が６基、西側で柱穴と土台状遺構が検出された。10月に行った曲輪西の調査では、南北4.5ｍ、東西５ｍ以上の基礎範囲と、木柵の痕跡、風化した凝灰岩からなる周堤状の高まりなどを確認した。北側で確認した遺構とあわせて焔硝蔵に関連するものと考えられる。現在南東に調査区を拡大して遺構の全面的な把握に努めている。

青少年科学センター北側から東側の腰石垣の天端及び裏盛土を中心とした調査では、裏盛土の土層観察から、数箇所を拠点に左右に盛土が行われたこと、石垣も同様に積まれたことが明らかになった。また、南側の腰石垣の裏から合坂の袖石垣が検出され、根石付近で浅野時代の瓦が出土した。現在の石垣は江戸時代に積まれたものと考えられる。

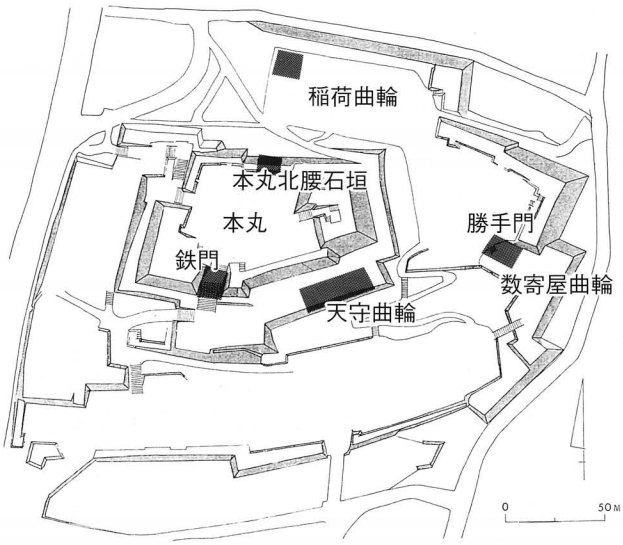
科学センター南の飛行機跡の調査では、南側腰石垣のほぼ中央部下で、瓦や割り石が入った土坑が１基検出され、東側腰石垣の根石付近より鯱瓦の破片が１点出土した。また、科学センター南及び南東の腰石垣解体後、裏盛土の調査を行ったところ南東腰石垣中から暗渠が検出された。

最後に数寄屋曲輪の調査について述べることにする。数寄屋曲輪は稲荷曲輪東南の一段低い所に位置し、数寄屋曲輪と稲荷曲輪との間には「勝手門」があった。東向きで間口は約２ｍと推定される。５月に行った調査では、北側の腰石垣上で門の礎石を１個、東側で石段を３段確認し、柱穴を南北に１ｍ間隔で３個検出した。また、金箔瓦（違い鷹の羽軒丸瓦）１点、鯱瓦１点、銅釘などが出土した。

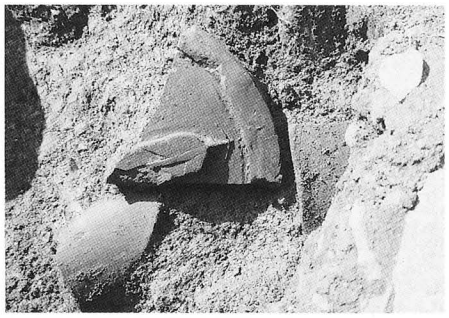
７月からの調査では、勝手門周辺を掘り下げ中に、土坑２基と焼土、炭化物の集中を平面的に確認した。土坑からは、かわらけ（16Ｃ～17Ｃ初頭）が出土し、１基からは獣骨も出土した。土坑を中心に周囲約５ｍ四方にかわらけの破片が多数分布し、内耳土器も数片であるが出土している。焼土、炭化物の集中範囲は、概ね土坑と重なる傾向がみられた。これらは地鎮祭が行われた痕跡ではないかと推定される。

さらに同じ地点より、大型の円形飾り瓦（違い鷹の羽紋）が、石切り場の岩の間に入り込むように、１～２ｍの範囲にまとまって出土した。金箔は確認できなかったが、分析の結果、漆が塗られていることがわかり、金箔付きであった可能性が高まった。直径は36～37㎝で、少なくとも３個体あると推定される。御殿など大型建築物の屋根を飾ったものではないかとみられる。

以上、今年度行った調査について概要を述べてきた。平成12年の整備事業終了まで、２年余りを残すのみとなり、発掘調査のほうも最終段階に入ろうとしている。来年度は、稲荷曲輪、本丸の調査の継続、ＪＲ身延線跡地の調査を予定している。



甲府城跡　平面図



大型円形飾瓦（違い鷹の羽紋）出土状況

本丸調査風景

本丸北腰石垣　暗渠

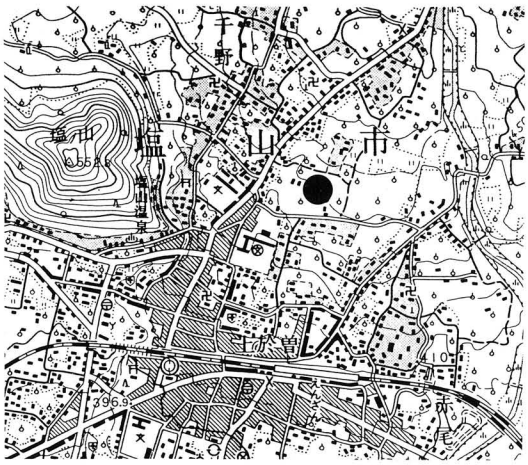
勝手門柱穴検出状況

鉄門旧石段

天守曲輪裏石垣

9．伊保水（いぼみず）遺跡

所在地　塩山市千野3568他
事業名　山梨県立産業技術短期大学校建設工事
調査期間　1997年５月６日～９月18日
調査面積　3,400m²
担当者　石神孝子・米山　真



伊保水遺跡　位置図

甲府盆地の東に連なる大菩薩嶺は、塩山市を南下する重川の水源になっている。本遺跡はこの重川によって形成された扇状地の右岸の北から南への緩斜面に立地しており、標高430m付近に所在する。遺跡の東側には古くから街道として栄えた青梅街道が通っており、付近は街道に伴って古くから集落が営まれていた。道沿いには江戸時代の石像物等が現在も多数分布している。

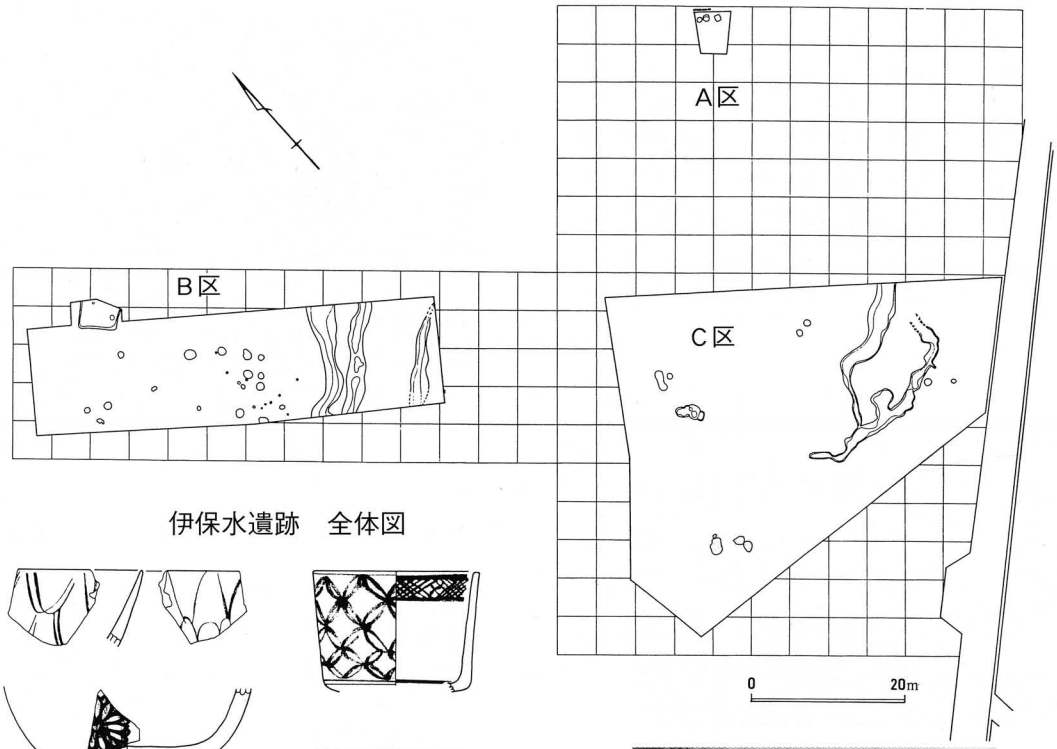
発掘調査の結果、縄文時代前期末の土坑10基、中世の住居跡１軒、土坑２基・溝２条、近世の墓坑19基、溝３条を確認した。

縄文時代前期末の土坑はいずれも少量の土器片を含む貧弱なものである。だが、本遺跡の北側には近接する時期である獅子之前遺跡が所在しており、両遺跡の関係は興味深い。

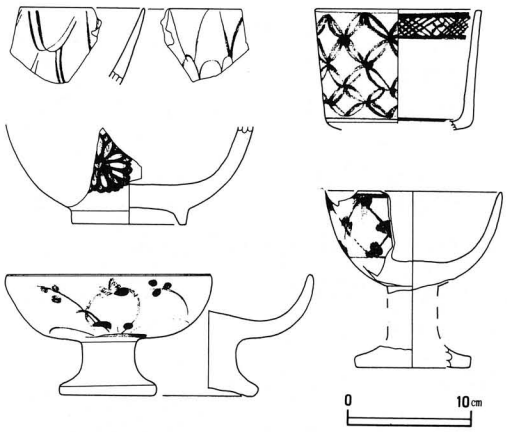
中世の住居跡は１軒が確認されている。掘り込みは浅く、南西コーナーには竈らしき遺構が付設されていた。内耳土器の破片が多数出土したが、全体の様相を窺えるものではない。また、Ｃ区で確認した溝２条は後生の洪水により一気に埋没したものと思われる。溝内より内耳土器・擂鉢等の破片が出土した。

近世の墓坑はＡ区で４基、Ｃ区で15基を確認した。Ａ区では地表面に、後世に整理されたような形で墓標３基と地蔵が立地しており、周辺からはそれらの供養に用いられたと思われる茶碗等の遺物も散在していた。キセル・陶磁器などの副葬品が出土したが、人骨については残存状況は悪かった。Ｃ区は後世の畑境の石垣の中に数点の墓石や台座等が混在していた。15基のうち12基は一カ所に集中して造営されており、墓域が設定されていたことを想定させるものである。遺物は人骨や歯をはじめとして六文銭・キセル・火打ち金・漆塗りの椀・仏飯具などの陶磁器類が出土した。さらに周囲の包含層からは擂鉢、茶碗など多数の陶磁器類が出土しており、それらはいずれも18世紀後半から19世紀初頭に位置づけられるものである。これらの陶磁器類の産地は瀬戸・美濃や肥前など遠隔地にも求められ、当時の流通経路を考える上でも興味深い。これらからこの土地でかつて屋敷が営まれ、墓坑群はそれに伴う屋敷墓であった可能性が推測される。

本遺跡は屋敷墓について考える上でも、また陶磁器類の産地と消費地の関係を知る上でも非常に興味深い遺跡であるといえよう。

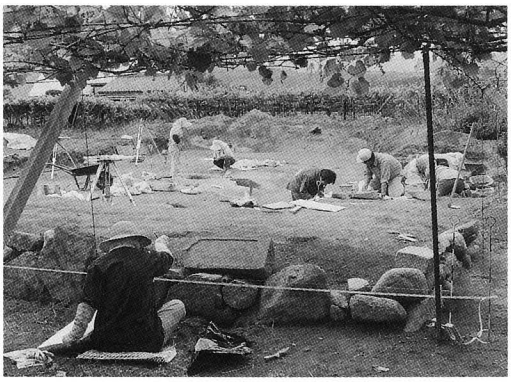


伊保水遺跡　全体図



墓坑出土磁器

4～15号墓坑

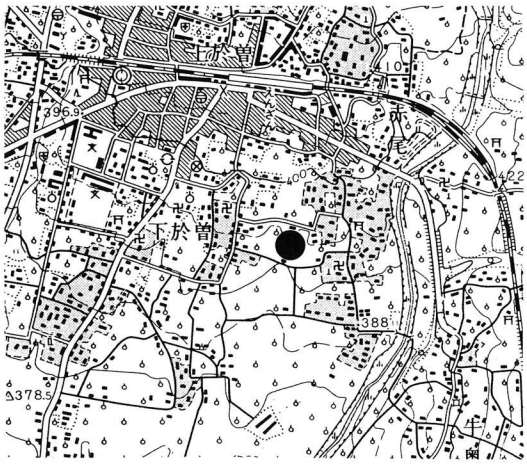


C区調査風景

キセル出土状況

10. 下西畑遺跡（しもにしはた）

所在地　塩山市赤尾769他
事業名　国道411号（塩山東バイパス）建設工事
調査期間　1997年10月13日～12月22日
調査面積　2,500㎡
担当者　石神孝子・米山　真



下西畑遺跡　位置図

甲府盆地の東には大菩薩嶺をはじめとする山々が軒を連ねており、そこからは幾筋もの川が流れ出している。その一つである重川は大菩薩嶺の東麓に源を発し、扇状地を形成しながら笛吹川に合流する。本遺跡はこのように重川が形成した扇状地の、標高392m付近に所在する。本遺跡は平成７年度の試掘調査により発見された。調査対象地の3,700㎡のうち、今年度は2,500㎡について調査を実施した。

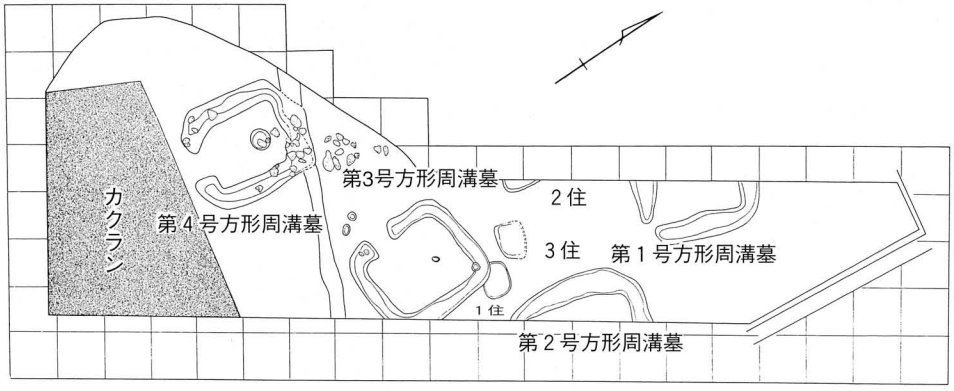
調査区は北から南へ緩やかに傾斜し、東と西はそれぞれなだらかに下る微高地になって丘陵を形成しており、遺構はこの丘陵上に集中して分布する。

発掘調査の結果、縄文時代は前期末から中期中葉にかけての遺構が見られ、住居跡１軒、土坑６基を、古墳時代は前期の方形周溝墓４基、住居跡２軒を確認した。このうち縄文時代の住居跡は中期中葉に位置づけられる土器を埋甕炉として付設し、該期の遺物を多量に含む。また土坑は前期末の遺物を含むもの、中期初頭五領ヶ台式期の遺物が出土するものなどがあることを考えあわせて、継続的に集落が営まれた可能性があることを知ることができる。

古墳時代前期の方形周溝墓はそれぞれ溝を共有することなく、単独で所在する。第１号方形周溝墓は周溝の南東コーナーに、第3･4号方形周溝墓は周溝の南側中央に、それぞれブリッジを有する。４基のうち２基はその半分が調査区外に延びているため、完掘することはできなかった。いずれの方形周溝墓もブリッジ付近及び各周溝コーナー内より遺物が集中して出土した。第１号方形周溝墓ブリッジ付近の溝からは、胴部に櫛描波状文の巡る壺やひさご壺等が、第３号方形周溝墓からは底部を穿孔した二重口縁壺を始めとする壺類、Ｓ字状口縁台付甕等が出土した。第４号方形周溝墓からは横ハケの消滅したＳ字状口縁台付甕・壺・高杯・鉢などがまとまって出土し、共伴関係を知ることができる。出土遺物から４基とも古墳時代前期後半に築造されたものと考えられる。

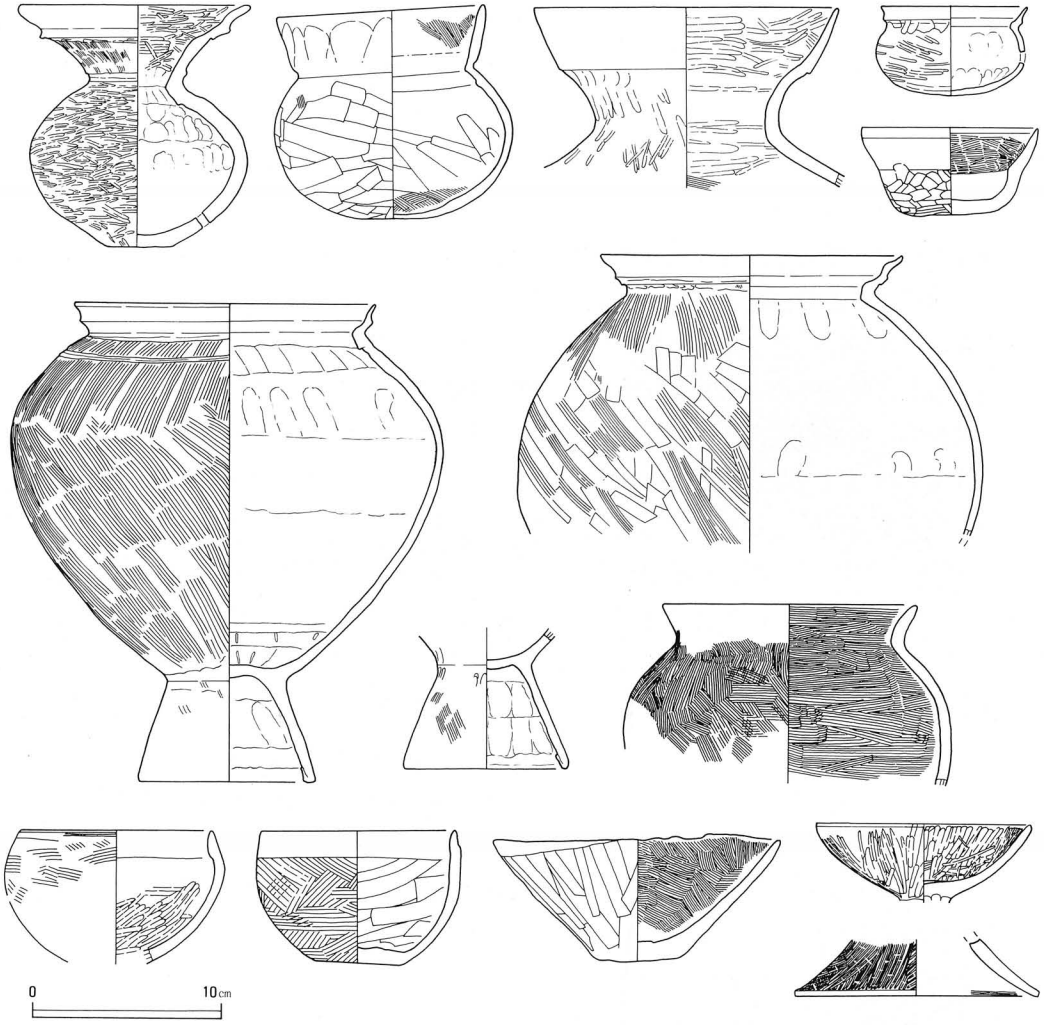
方形周溝墓群は第１号方形周溝墓を北限とし、丘陵の落ち込みとともに墓域の南限となるようである。また丘陵の最も東側に第２号方形周溝墓が立地していることから、この方形周溝墓を東限と考えてよいと思われる。西側は調査区外にも丘陵が続いているため、墓域の広がりは定かではない。

本遺跡は甲府盆地最東に位置する方形周溝墓群として、同様の性格を持つ周辺の遺跡とともにその様相は非常に興味深いものである。



下西畑遺跡　全体図

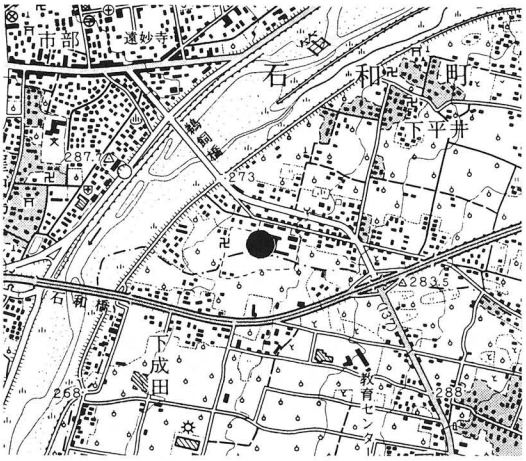
0　20m



第4号方形周溝墓　出土遺物

11. 石和高校周辺遺跡（いさわこうこうしゅうへん）

所在地　東八代郡御坂町成田1951-2外
　　東八代郡石和町市部３外
事業名　県立石和高等学校グラウンド拡張整備
調査期間　1997年６月12日～８月25日
調査面積　514㎡（1952.5㎡）
担当者　保坂一英・高野玄明・雨宮芳夫



石和高校周辺遺跡　位置図

笛吹川氾濫原に接し、西北方向に傾斜する金川扇状地の末端部、標高274m付近に本遺跡は立地する。今年度も昨年度に引き続きグラウンド拡張に伴う発掘調査で、今回は主に高校敷地内が調査区にあたり、大きく４カ所に分かれる。調査は重機及びトレンチを任意に設定して掘り下げを行い、遺構・遺物の有無を確認した。検出された箇所については、トレンチ周辺を拡張し、本調査を行うことにした。以下、各調査箇所ごとに概要を記す。

新弓道場建設部分（１～８号トレンチ）

本調査区は、現グラウンド南側の陸上競技場にあたり、重機を用いてトレンチ掘削を行った。調査箇所においては、グラウンド造成面下部には0.5～1.0m程で緑色砂層に湧水を伴うなど安定した文化層は検出されず、遺構・遺物は全く検出できなかった。

校舎東側道路拡幅部分（９～15号トレンチ）

用地買収が終了した調査区内に人力によるトレンチ掘削と精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。地表下0.7～0.9m程で砂礫層がみられ、平安時代～中世の遺物が微量であるが検出されたが、しかし、いずれも小破片で磨滅が激しく付近の遺跡からの流入によるものと考えられる。

テニスコート部分（16～24号トレンチ）

本調査区も、新弓道場部分と同様、重機を用いてトレンチ掘削を行った。0.85～0.95mで湧水を伴う砂礫層がみられ、安定した文化層は見られず、遺構・遺物の検出には到らなかった。

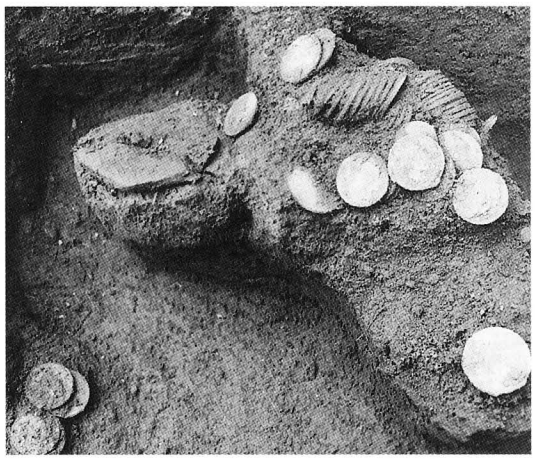
北側～西側グラウンド内道路拡幅部分（25～35トレンチ）

本調査区は、人力による掘削を行い、グラウンド造成面下部地表下約1.0m程に安定した文化層（黒色土）が確認されている。黒色土上面及び黒色土中から古墳時代後期、平安時代、中・近世、近代の遺物が出土しているなか、遺構は33号トレンチから近代の墓礦が１基が検出されている。この遺構については、現在のグラウンド造成にあたり墓地を移転した経緯があり、墓地移転にかかわる遺構と考えられる。墓礦周辺には、副葬品と考えられる古銭（明治年間）・陶磁器片・小片の骨片などが検出されている。墓礦の規模については、長辺1.10m、短辺0.55mの長方形を呈し、確認面より深さ0.3mを測る。墓礦内部には、木製の棺桶の残骸、微

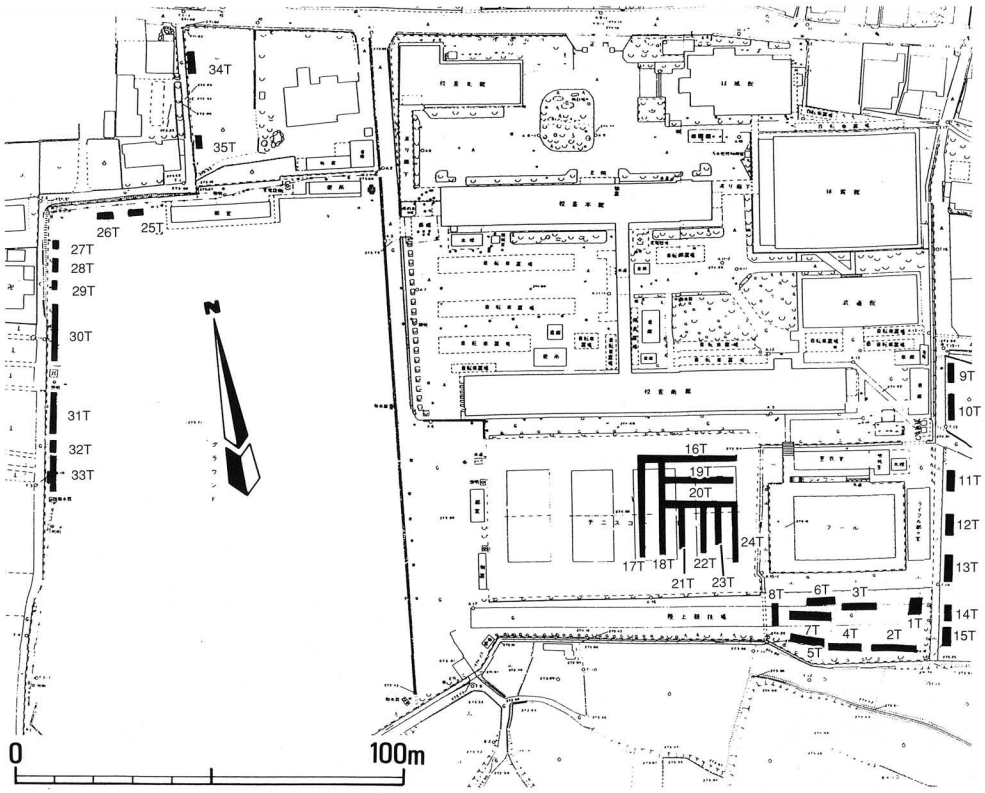
量の骨片、薬ビンなどが出土している。しかし、墓礦に関する詳細な埋葬の形態・性別・年齢等は全く不明である。これらは、墓地移転に際し回収しきれなかった副葬品と考えられる。

今回の調査によって、グラウンド西側において安定した黒色土が検出されている。黒色土中から、古墳時代後期、平安時代の遺物が検出されているものの、該期の遺構は今回の調査によって検出できなかったが、周辺において該期の集落が存在する可能性が示唆される。

作業風景



33号トレンチ古銭出土状況



石和高校周辺遺跡　トレンチ配置図（S＝1／2、000）

12. 桂（かつらの）野遺跡（第２次調査）

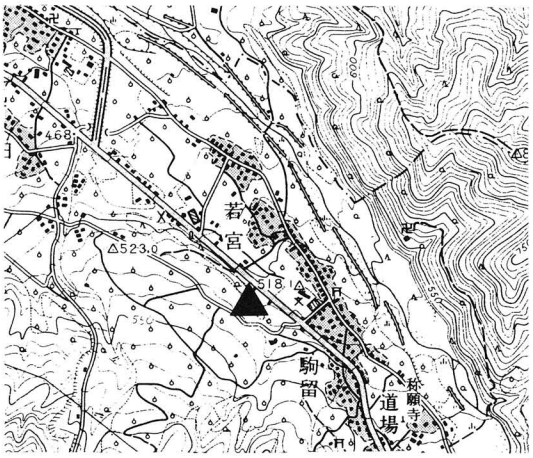
所 在 地　東八代郡御坂町大字上黒駒字桂野大道上1900外

事 業 名　国道137号線バイパス（御坂バイパス）建設

調査期間　1997年９月１日～12月25日

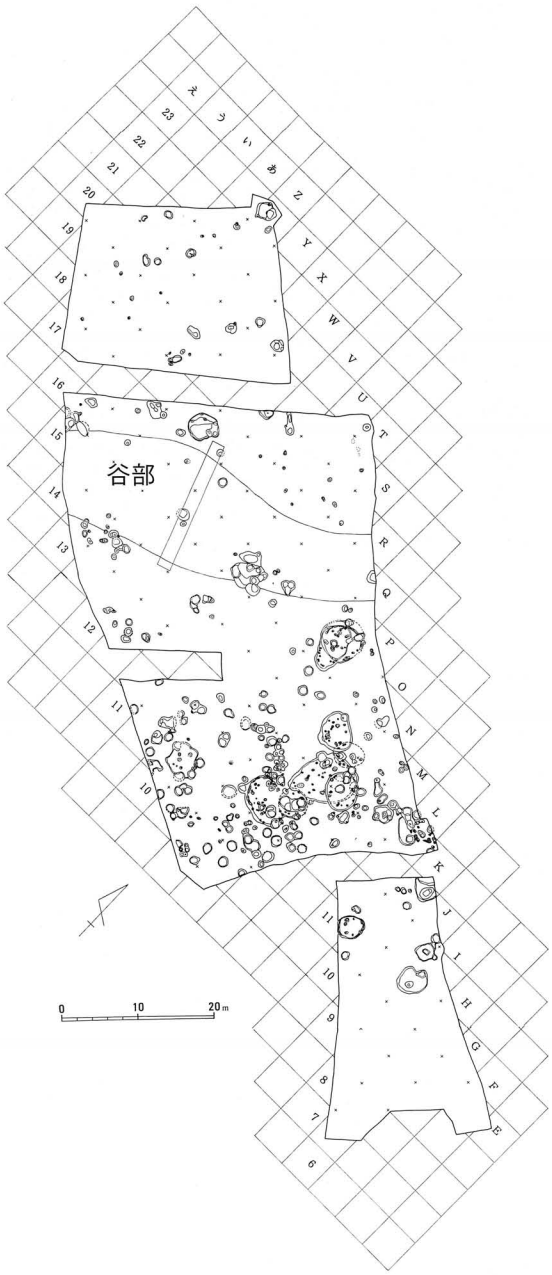
調査面積　4,000m²

担 当 者　野代幸和・市川恵子

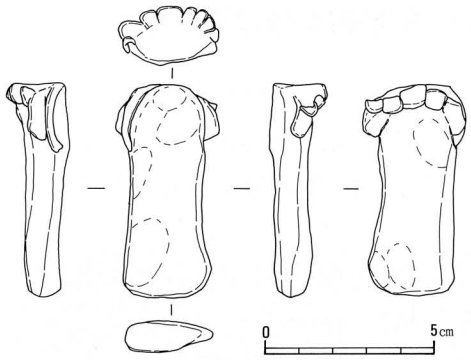


桂野遺跡　位置図

本遺跡は、甲府盆地の東部に連なる御坂山塊の北西緩斜面に位置する。金川の左岸にあたり、標高は530mを測る。今回は、昨年度行われた第１次調査区の北西側に隣接する約4,000m²について調査を実施した。出土した土器でみると、縄文時代前期後半諸磯ｂ式から後期前半堀之内Ｉ式までのものがみられるが、遺構の主体となる時期は、前期末葉～中期初頭である。発見された遺構をみてみると、住居跡については前期末葉で２軒、中期初頭で16軒、土坑約300基、竪穴状遺構２基、単独で存在する埋甕５基があり、風倒木の痕跡もみられる。土坑は、集石を伴うものや、埋設土器を伴うもの、袋状を呈するものなど形態的なバリエーションに富んでおり、墓坑、貯蔵穴、陥し穴、調理用の施設などの用途が考えられるものが発見されている。特筆すべきものについて述べてみると、前期末葉に位置づけられる住居跡からは、関西系土器と中部高地系土器が共伴して出土している。この住居跡はその形態についても、しっかりした主柱穴が８本存在し、そのまわりに小型の補助柱穴が巡り、住居壁の立ち上がりも明確で、該期の一般的な住居跡の形態とは若干異なった様相を呈している。また、ほぼ同時期の関西系土器が出土している土坑もあり、この土坑からは髪の毛のみが表現された板状の土偶も出土しており興味深い（右上図）。また後期堀之内Ｉ式の注口土器を伴った土坑もある。石器の内容については、石鏃、石匙、スクレーパーなどが高い割合を占め、石皿、磨石、凹石などは比較的少なく、採集よりは、狩猟に重きをおいた生活であったころを窺わせる。特殊な遺物としては、土偶、土製玦状耳飾、土製円盤、ペンダント形の土製品などがある。昨年度の調査成果と合わせて、桂野遺跡における縄文時代前期末葉～中期初頭の景観を復元してみると、自然地形の谷と谷に挟まれた場所に住居跡や土坑が散在している状況であったと考えられる。住居は狭い範囲にかたまる傾向がみられるが、改築された状況を示すものは無く、建て替えによる結果であると考えられる。炉の焼土は厚く残っているものもあり、ある程度の長期的な定住を示唆するものと考えられる。谷周辺には陥し穴が点在し、調理用と考えられる集石土坑も造られているなど、今回の調査では、緩斜面に展開するくらしを総合的にとらえることができる資料を得ることができた。継続の調査によって更に全体的な広がりがみえてくるものと思われる。来年度は引き続き今年度調査区の北西側の調査が行われる予定である。

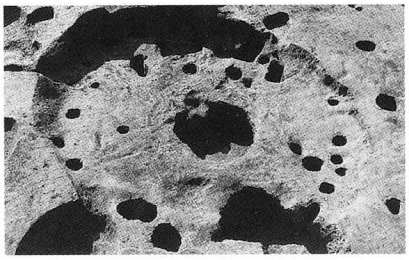


全体図（第２次調査）



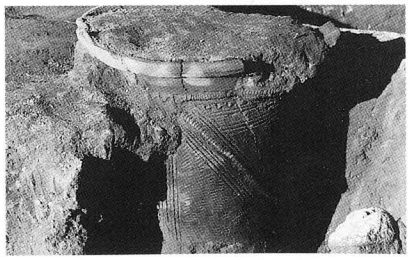
縄文時代前期末葉段階と考えられる土偶

住居群　完掘状況



第７号住居跡（大歳山式期）

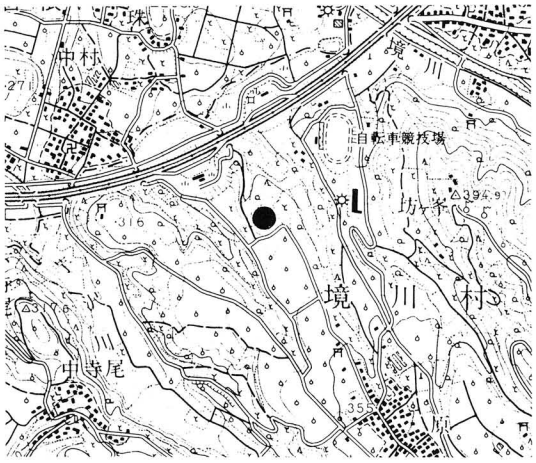
第７号住居跡　遺物出土状況



第５号住居跡　埋甕炉

13. 諏訪尻（すわじり）遺跡

所在地　東八代郡境川村藤垈字諏訪尻3883外
事業名　県営分譲地造成事業
調査期間　1997年５月19日～11月21日
調査面積　約4,000㎡
担当者　坂本美夫・熊谷栄二



諏訪尻遺跡　位置図

諏訪尻遺跡は、甲府盆地の南東部、曽根丘陵上の緩斜面に位置し、３本のテレビ塔を有する坊ヶ峰の西約600ｍにあり、標高は約323～327ｍを測る。境川村は平地・山岳地と丘陵地に分けられこの丘陵地上には旧石器時代以降の遺跡が数多く存在している。藤垈地区も縄文～古墳時代の遺跡が多く、特に発掘調査によって須恵器窯跡が明らかにされ、他にも窯跡の存在が推定されるなど県内の須恵器生産地として注目される地域である。本遺跡は周知の遺跡として以前から遺跡の存在が確認されていた。その範囲は約20,000㎡とされているが、今回の調査範囲はリニア実験線トンネル掘削による残土を用いて県営分譲地の造成事業が行われる範囲の内、５年前にすでに試掘調査が行われた結果をうけた約6,500㎡を対象に調査した。調査の結果、土坑30数基、住居跡25軒、方形周溝墓１基（２号墳）、円墳２基（１・３号墳）、溝９条を確認した。土坑の内、１号住居内、１号墳の周溝内のものは掘立柱建物のものと考えられるが時代的にはいつのものか不明である。住居跡は、２号住居が唯一縄文時代のものである。壁は明確には確認できなかった。床も明確なところがなく、ローム層まで掘り下げ、ローム面がすり鉢状を呈しているのが確認できた。この縁辺部近くに柱穴が２個１対のような状況で検出され、建て直しの可能性を示す。土器も前期諸磯Ｃ式が出土している。弥生末～古墳時代前半（３世紀～５世紀初め）と思われるものが16軒検出しているが、（13号は２号墳に17～20号は１号墳の周溝に切られている。この５軒の調査については次年度へ繰り越した。）、これら全て楕円形を呈している。７号住居は調査区南端に位置し、全体を検出することはできないが、現状で長軸約10ｍ、推定では約13ｍになると思われる（短軸は約9.9ｍ）。この住居の中心を一辺約6.5ｍの方形の９号住居が切っているため、７号住居の床全体を見ることはできないが、床一面に焼土が検出でき、焼失住居である可能性が極めて強い。他の住居にこのような状態は見られず、住居の規模はこの時期のものとしては県内最大級ということもあり、この集落の首長の家屋だった可能性が十分にうかがえ、何らかの抗争によって失われたことも考えられる。24号住居は長軸6.55ｍ、短軸5.95ｍであり、住居南側柱穴付近に柱の用材と思われる炭化材が出土した。古墳時代前半（５世紀前半）と思われる住居跡は８軒有りすべて方形である。

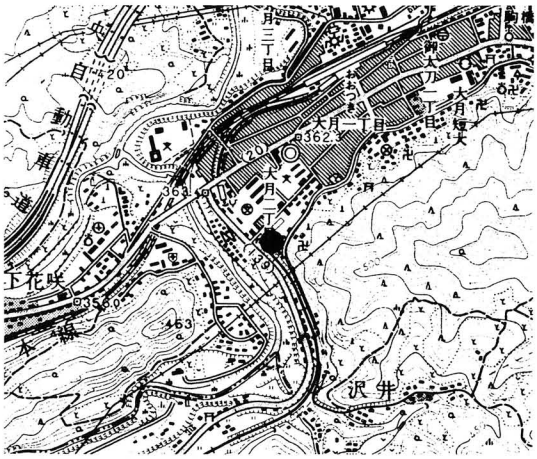
方形周溝墓は１辺15ｍ規模のものである。主体部は残っていない。周溝全体を検出できなかったため、ブリッジの有無はわからない。時代的には、周溝から出土したＳ字口縁台付甕から

４世紀から５世紀前半と考えられる。円墳は、３号墳は周溝の約1/4の存在を確認しているが、次年度へ繰り越しである。１号墳は径が約30m、その周囲を巾約４ｍ、深さ約１ｍの周溝がめぐっている。やはり主体部は残っていない。時代は５世紀前半頃と思われ、出土遺物は、小型の坩・長さ約30㎝の剣などがみられる。これまで境川村では50基余りの円墳が確認されているが、その規模は直径が約15m前後で、ほとんどは古墳時代後期のものである。５世紀代の古墳としては、５世紀中頃のものが確認されているが、５世紀前半の古墳は見つかっておらず、この地域における豪族層の隆盛、または隣接する中道町地域に大古墳群を築造、君臨した中道首長家の衰退を探る上で貴重な資料となると考えられる。

調査区　全景

14. 大月（おおつき）遺跡
（第７次調査：大月バイパス本線部分）

所在地　大月市大月２丁目11-20外
事業名　国道20号（大月バイパス）建設
調査期間　1997年９月16日～1998年２月13日
調査面積　1,950㎡（650㎡×３面）
担当者　小林公治・長田雅巳



大月遺跡　位置図

大月遺跡は、桂川と笹子川との合流地点から南東およそ600ｍ地点の段丘面上に位置し、県立都留高等学校の敷地およびその周辺一帯に広がっている縄文時代後期、奈良・平安時代、中世にかけての集落を中心とした複合遺跡である。昭和２年以来、10次にわたって発掘調査がおこなわれてきたが、今回の調査は大月バイパス本線部分の事前調査であり、1995（平成７）年に実施した第７次調査の継続として未調査部およそ2,000㎡が今年度の調査となる。なお、今年度の調査をもって近年行われてきた大月遺跡発掘調査の区切りを迎える。

調査の結果、大きく３面で遺構が確認された。平安時代では土坑21基・ピット13基・掘立柱建物址１棟・溝３条が確認されているが、出土遺物がほとんど見られない。掘立柱建物址は、先年の調査で確認されているものの東側梁行にあたる部分である。

縄文時代の遺構では、後期の敷石住居址１軒・土坑12基・焼土址９基・ピット39基・配石遺構１カ所・集石遺構３基が検出された。敷石住居は周縁部を除き大きく攪乱により壊されているため、全体の形状等はっきりしたことは不明であるが、残存状況から円形に近い形のものと推測される。そして、住居のほぼ中心には、枕石を持ち直径80㎝ほどの炉が確認された。また、この住居に近接して、近隣の桂川および背後の山のものと考えられる大形礫から構成される配石遺構や、焼礫・非焼礫が多数交互に重なり合って構成されている集石遺構なども確認されている。この他、ローム上面から確認された隅丸長方形の土坑底面からはヒスイ製の玉が出土しており、墓礦であると考えることができる。遺物は、縄文時代包含層の上位30㎝ほどが特に集中しており、多量の土器・石器類が山際を除くほぼ全面からかなりの密度で出土している。また、黒曜石の出土状況においては特定の場所から集中して出土している傾向も見られた。これらの多くは土器が後期堀之内式および称名寺期のもので、石器類は石皿や磨石・石斧・黒曜石の剥片等である。こうした遺物の出土状況や量から今回の調査地一帯が土器等の捨て場や黒曜石の加工場に関わる性格をもっていた可能性があろう。

今回の調査で1989（平成元）年の第５次調査以降行われてきた一連の調査が終了するわけだが、今後の整理・分析作業によって、遺跡内の土地利用区分の問題などが具体的に明らかになることが期待される。

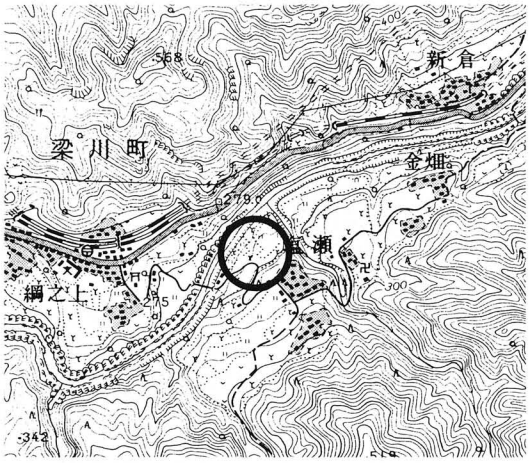
主要遺構　概略図

敷石住居跡

埋甕　検出状況

15. 塩瀬下原遺跡（しおせしたっぱら）

所在地　大月市梁川町塩瀬842-2番地外
事業名　桂川流域下水道終末処理場建設
調査期間　1997年４月22日～12月25日
調査面積　4,800㎡
担当者　吉岡弘樹・萩原孝一



塩瀬下原遺跡　位置図

忍野八海を源として相模湾に下る桂川は、大月市地内において国道20号に沿うように流下を続け、右岸に大規模な河岸段丘を形成させている。この段丘中位（海抜238㎡）に本遺跡は存在する。この地域は、これまでこれほど広域な開発行為は皆無だったため遺跡の分布状況が掴みにくい場所であった。しかし、近年、大月市教育委員会による市立梁川小学校地内の発掘調査から縄文時代前期の土壙が検出されるなど僅かづつではあるが遺跡の展開が把握され始めている。

昨年度までの発掘調査では敷石住居跡・配石群・配石墓・集石土壙・石器製作跡などの様々な遺構の他、各種の土器・石器類が多数検出されている。

本年度は、第一期工事分の調査最終年にあたり、段丘縁辺部を含むＬ字状に残されていた未調査箇所の二面の文化層が調査対象となった。その調査結果は、次のとおりである。

［下層］　調査区全体に確認され、時期は縄文時代中期後半代に求めることができる。遺構は、段丘縁辺部周辺を中心に竪穴住居跡４軒、埋甕52基、屋外炉７基などが検出された。この中で、目を引くものとして埋甕の多さがあげられる。また、検出される状況も単独のものの他、97―５号埋甕のように２～３基が集合しているものがある。また、特異なパターンとして97―28～32号埋甕のように約1.5㎡の自然石を意識してその周囲に設置されたものもみられた。

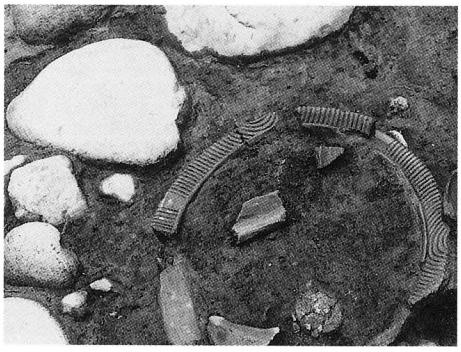
［上層］　調査区西側に厚く黒色土として認められる。時期は、縄文時代後期前葉から後葉に比定され、敷石住居跡４軒、配石８基、配石墓２基などが検出された。敷石住居跡はいずれも段丘上方からの土石流によってほとんどの遺物は流出していたものの、20～30㎝の緑色岩系の自然石を使用した敷石が良好に検出できた。また、97―９号配石は直径12～15㎝の不整円形で南東部に４ｍ程の張り出しを持つ形状をとる。使用されている石材は30㎝～１ｍの自然石で割石の設置は確認されなかった。この他、特殊遺物として97―６号住居跡隣接部より長さ80㎝、直径26㎝の大型石棒が出土している。

今年度の調査成果としては、今まで計画に検出できなかった縄文時代後期の文化層が広域に確認できたことがあげられよう。このことは、遺跡の主たる時代の特定や性格を知る上での大きな手がかりとなるものであろう。

調査区全景（西側から）

97-1号　配石　検出状況

97-3号　配石　検出状況

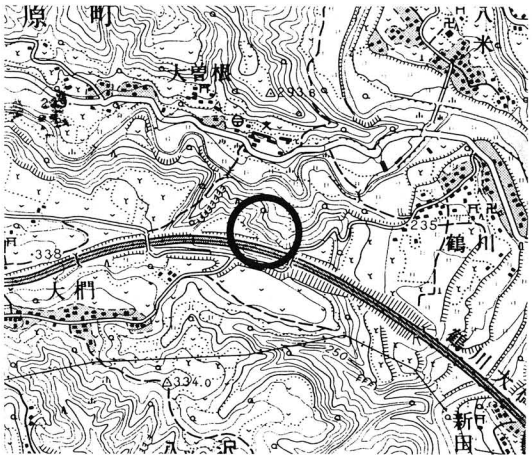


97-5号　埋甕　検出状況

埋甕　調査風景

16. 南大浜遺跡（みなみおおはま）

所在地　北都留郡上野原町鶴川字日野道1060
事業名　中央自動車道富士吉田線改築
調査期間　1997年４月21日～９月10日
調査面積　4,800m²
担当者　笠原みゆき・伊藤伸一



南大浜遺跡　位置図

本遺跡は、中央自動車道富士吉田線上り車線の上野原町地内鶴川大橋の西側にあり、県道大月・上野原線の鶴川集落から大柵集落へ抜ける途中に広がる尾根の先端部分に位置する。拡幅工事の工程に基づいて、「南大浜遺跡」と呼んでいるが字名は日野道という。上野原町誌に記載されている本来の南大浜遺跡は、高速道路を挟んで南側の段丘面のことであり、今回の調査区は1969年の道路建設に伴って、本線及び側道・工事用道路等に切り割りされた尾根の先端部分に当たると思われる。標高は約294～296mで西から東にかけて微妙に傾斜している。南大浜遺跡は、中心部分の発掘調査がまだ行われていないため遺跡の全容は明らかではないが、縄文時代中期末の土器片や黒曜石が採取されている。また、東南に隣接する大浜遺跡からも、縄文時代中期末や後期初頭の土器片や多くの石鏃・黒曜石製の錐、土師器などが採取され、南大浜遺跡と共通する部分が多いことから、この尾根全体を一つの遺跡とする見方も指摘されている。

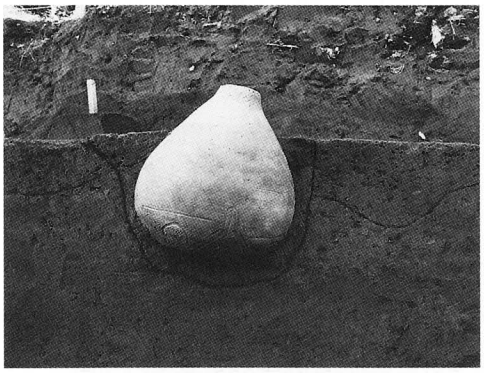
今回の調査は３面にわたり、縄文時代早期から平安時代までの遺構・遺物が発見された。第１面では、土坑54基・溝状遺構57条・弥生時代中期の再葬墓１基が検出された。土坑は正円形が主で、小判形のものや隅丸形のものもある。土坑からの出土遺物は少なく、40号土坑からベンガラと思われる赤色顔料が付着した石が出しているのみである。再葬墓に使用された土器は、頸部が肩部で故意に欠かれた状態で逆さに埋められていた。壺の中の土壌の分析結果を待たなければならないが、出土した状況や弥生時代中期の墓制の調査例から再葬簿の可能性が高いと思われる。県内では、この他に報告されている例として、明野村下大内遺跡がある。上野原町においては弥生時代の遺構の発見は稀であるため貴重な資料となった。

第２面では縄文時代前期から中期頃の焼土１基と集石遺構３基が検出された。焼土は試掘調査の段階で確認できていたものであったが、それ１基のみであった。掘り方は確認できず、焼土が薄く広がるだけであった。集石遺構は、遺跡全体で３基確認でき、50m程の間隔をあけて存在している。掘り込みは無いが焼けていると思われる拳大の割れ石が長径100cm・短径70cmほどの不整形をなしていた。焼土や集石内には遺物は含まれていないが、調査面からは有舌尖頭器が１点と石器や土器が出土している。

第３面では縄文時代早期の陥し穴36基・土坑24基・風倒木10基の合計70基が検出できた。陥し穴は、調査区全体から確認されており、当時の狩猟の場として重要視されていたことが窺わ

れる。穴の掘り方は、一様ではなく大きさ深さなど様々である。大浜・南大浜遺跡と谷を挟んで存在する大椚Ⅰ・Ⅱ遺跡は1992年から帝京大学文化財研究所によって調査され、今回の調査では発見出来なかった集落の痕跡を含めて、縄文時代早期から後期、平安から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。

今後、引き続き南大浜遺跡本体の調査も行われる予定ということだが、現在までの調査結果と今回のものとは時代の差はあまり感じられない。谷を挟んで同時代の遺跡が存在するということは、大浜遺跡と大椚遺跡の関係が一つとなる可能性も推定でき興味深い。対岸の大椚遺跡からも同時期の陥し穴が沢山検出されているため、近くに集落があるだろうと推定されるが、現在、確認できていない。ここ数年間で当遺跡の存在する大椚地区の発掘調査が行われ、遺跡の内容が明確になってきている。しかし、集落・墓域・生産の場が揃って見つかることがない。遺跡自体が段丘面の先端に近い位置にあるため、今後、その周辺一帯の発掘調査が行われることを期待している。



再葬墓検出状況

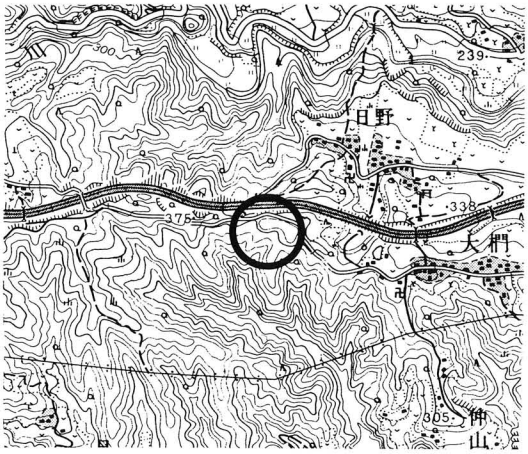
第３面　19．20．34号土坑

第１面　東景

第３面　全景

17. 長峰砦（ながみねとりで）遺跡

所在地　北都留郡上野原町大椚1108外
事業名　中央自動車道富士吉田線改築
調査期間　1997年11月21日～12月25日
調査面積　11,500m²
担当者　笠原みゆき・伊藤伸一



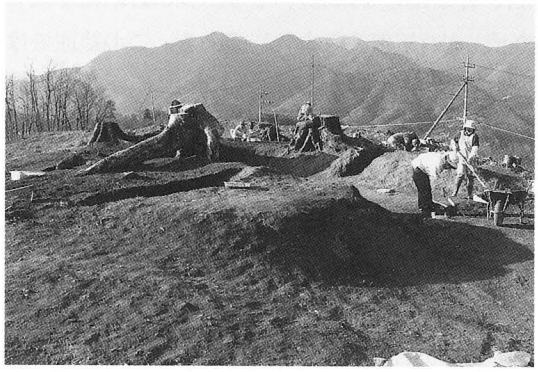
長峰砦遺跡　位置図

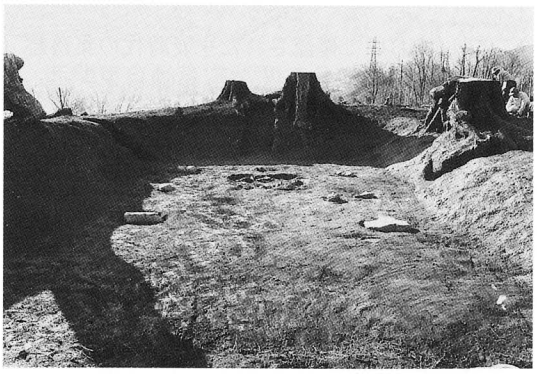
本遺跡は、中央自動車道下り線、談合坂サービスエリアの東側約２㎞の地点に位置し、標高342mから366mを測る。付近の仲間川の南側にそって発達する狭く長い尾根上にあたり、江戸時代の甲州街道が通過する要衝の地にあたる。

遺跡範囲は、中央自動車道のショートカット区間の長さ約700m・幅40mほどの地域である。本年度の調査は平成７年度調査実施以外の大椚地区買収地域で、航空測量図の作成と丸山地区の土塁、及び帯曲輪状のテラス面の遺構確認をおこなった。

調査の結果、長峰砦の築造年代である戦国期の遺構は検出されなかったが、移転した丸山稲荷神社のものと思われる一間半四方に配置された礎石や瓦、さらに寛永通宝など近世から近代にかけての銭貨や磁器片が検出された。

長峰砦の主体は、土塁や曲輪状の遺構が地上観察から窺える本年度調査区の西側に展開しており、来年度に調査を実施する予定である。

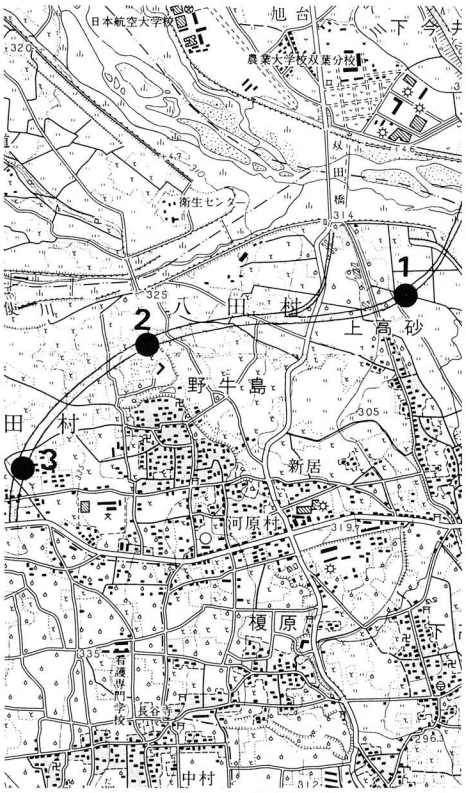

調査風景　1


調査風景　2

18. 八ヶ岳東南麓遺跡群ほか分布調査

18-1　中部横断道試掘調査

所 在 地　中巨摩郡八田村地内
事 業 名　中部横断道試掘調査
調査期間　1997年12月16日～1998年３月４日
調査面積　30,000㎡（20m×1,500m）
担 当 者　米田明訓・三田村美彦



試掘調査範囲

中巨摩郡八田村地内における中部横断道予定地内で既に日本道路公団によって用地買収が終了している範囲について埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。調査は当初平成９年12月から翌10年１月柱に終了する予定であったが、月に甲府地方が記録的な大雪に見舞われたために、３月まで実施がずれ込んでしまった。

調査区に幅1.5m×長さ30～100mのトレンチを23本設定し、重機により掘削を行った後、作業員の精査による土層断面観察と遺構・遺物の有無を確認した。具体的な調査範囲は、八田村地内の北巨摩郡双葉町との境の富士川右岸から、中巨摩郡白根町との境の県道竜王・芦安線際までの区間である。調査範囲は長さにして1.5㎞にも及び、所々に御勅使川の旧流路が確認された。それらの箇所については地表の耕作土直下から砂礫が厚く堆積しており、重機による深堀は危険なためトレンチの深さも限定された。

調査の結果、試掘調査実施以前より富士川の堤跡として発掘調査実施の必要性が認識されていた１箇所の遺跡（１）以外に、八田村野牛島で、新たに２箇所の遺跡を確認することができた。一つは野牛島字仲田（２）において確認された中世の水田跡（7,500㎡、仲田遺跡と命名）、もう一つは野牛島字立石下（３）において確認された平安時代の集落跡（11,000㎡、立石下遺跡と命名）である。この範囲では土壌は安定しており、２m以上掘り下げても砂礫が全く存在しない状態であった。

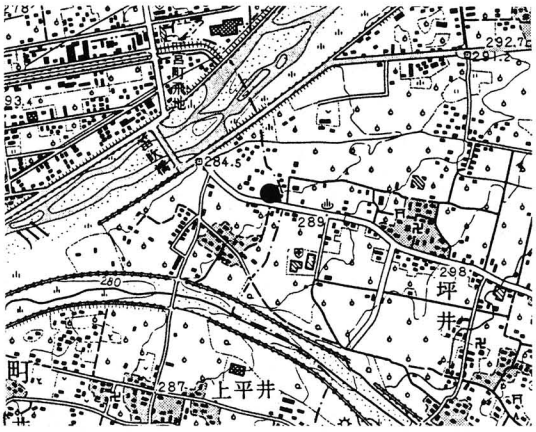
仲田遺跡については､遺物として若干の土器片が、遺構としては水田跡の畦畔が広い範囲で確認された。

立石下遺跡については、遺物としては多くの土師器片が、遺構としては明確な住居跡が２基と住居跡の可能性が強い落ち込みが１基確認された。調査範囲が道路公団分の限られた範囲である上に、少ないトレンチであることを考えると、調査区の外側に広がる建設省分の土地を含めて遺構が広く分布している可能性が高い。

これにより、先に記した富士川の堤跡を含め、今回試掘調査の対象とした範囲では、３箇所の遺跡について発掘調査の実施が必要となった。今後は北巨摩郡双葉町地内と中巨摩郡白根町地内の試掘調査が予定されている。

18-2　松葉畑南地区試掘調査

所 在 地　東八代郡石和町松葉畑南
調査期間　1997年５月７日
調査面積　60㎡（740㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫



松葉畑南地区　試掘調査地点

峡東流域下水ポンプ場建設予定地の遺跡所在確認調査である。長さ10～12m、幅２mの調査溝を、長軸を南北方向に平行して３本設定し掘り下げた。まず、バックホーで深さ1.5mほどを掘り下げたところで、砂層の下に黒色土層が確認されたのでその面を人力にて精査したが、10～12㎝ほどで砂層となり、遺物・遺構は確認されなかった。さらに砂層を１m程度、バックホーで掘り下げたところ、下位の黒色土層を確認したので、人力にて精査したが遺物・遺構は確認されなかった。なお、最も東に設定した調査溝では、２mもの厚い砂層の下から泥炭層が50㎝ほどの厚さでみられたが、遺物・遺構は確認できなかった。

18-3　西関東自動車道路関連遺跡分布調査

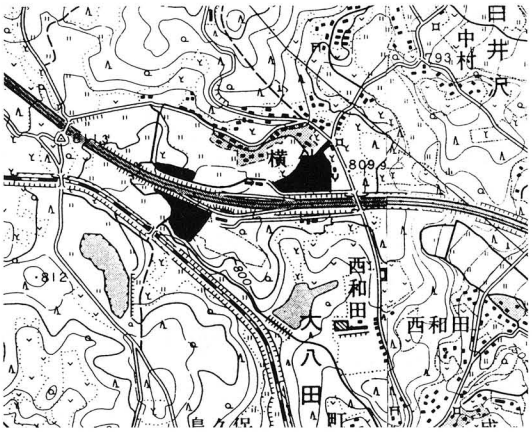
所 在 地　東山梨郡春日居町鎮目、保雲寺裏地内
調査期間　1997年５月８日
調査面積　10ha
担 当 者　小林広和・保坂康夫

西関東自動車道路関連分布調査地域

西自動車道路関連で、大蔵経寺山東麓のトンネル入口付近の、遺跡所在確認のための踏査である。トンネルの開口部の大蔵経寺山東麓の斜面では、巨石が何カ所かにみられ、須恵器の分布する地点もあった。斜面下端の山沢川東側の緩斜面では、黒曜石の剥片が広く分布していた。その緩斜面の北方の山の斜面には平林古墳が所在し、用地内に墳丘全体が入っていた。墳丘は直径約20mで、石室は天井も含め保存状況が良好である。また、その南側の沢にかけて須恵器片などの分布がみられ、巨石が並ぶ地点もあった。今回踏査を行った地域では、少なくとも５カ所の遺跡や古墳の所在が確認できた。

18-4　中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事対象地域試掘調査

所 在 地　北巨摩郡長坂町大八田、白井沢
調査期間　1997年５月13日～６月16日
調査面積　2,800㎡（25,000㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫

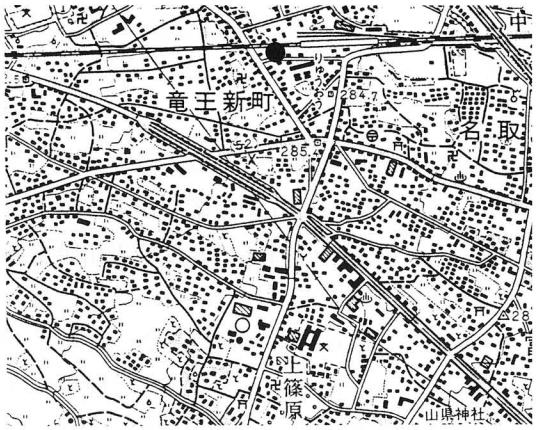


八ヶ岳パーキングエリア改良工事関連調査地域

中央道八ヶ岳パーキングエリア改良工事に伴う試掘調査で、３つの地区の調査を実施した。中央道北側で最も東側の地区では、長さ50～10m、幅２mの調査溝を40本設定した。小山の斜面から水田地域に臨む緩斜面にかけての地形がみられるが、下位の平坦面から旧石器時代の石刃、掻器、打製石斧の調整剥片などの石器や剥片が20点ほどと、配石、礫群を構成すると思われる礫が数点確認された。厚さ30㎝ほどの耕作土層直下のローム層中で、上面から30㎝ほどの範囲内に分布する。遺跡範囲は2,000㎡ほどである。調査地域西端の地区では長さ25～５m、幅２mの調査溝を９本設定した。小山の東側緩斜面で、竪穴状遺構や小ピット等を数十基確認し、中世の遺跡であることが確認された。遺跡範囲は1,000㎡ほどである。中央道南側の調査地区では、1.5m四方の試掘坑を26カ所設定し人力で掘り下げた。小山中腹にある平坦面で、弥生時代初頭の条痕文土器を中心に数十点の遺物を確認した。厚さ約２mほどの黒色土の堆積がみられ、古い河道が埋没したものと思われる。遺跡範囲は1,000㎡ほどである。

18-5　元免許地区試掘調査

所 在 地　中巨摩郡竜王町竜王新町元免許
調査期間　1997年７月２日～８日
調査面積　180㎡（2,500㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫



元免許地区　試掘調査地点

国鉄清算事業団の所有地で宅地等の開発に伴う遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ15m、幅２mの調査溝を長軸を南北方向にして平行して６本設定した。厚さ50㎝ほどの瓦礫の埋め立て層、山土客土層があり、その下位には厚さ20㎝ほどの褐色シルト層がみられる。その下位は、地表から２～2.5mを掘り下げたが砂礫層であった。遺物・遺構はまったく確認されなかった。

18-6　大林遺跡範囲確認調査

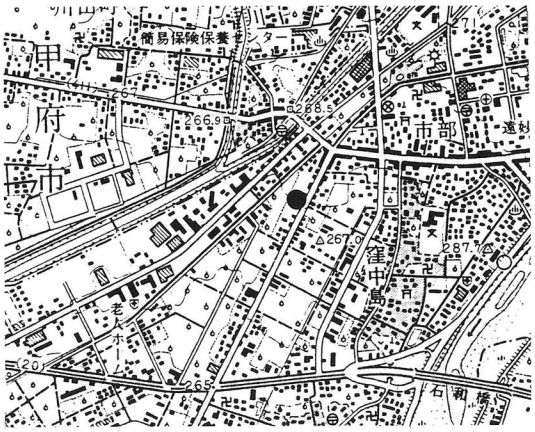
所 在 地　北巨摩郡長坂町長坂上条
調査期間　1997年７月14日～28日
調査面積　320㎡（3,800㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫

大林遺跡　試掘調査地点

郵政省直轄の日野春郵便局移転予定地の遺跡範囲確認のための試掘調査である。長さ40～15m、幅２mの調査溝を調査地域全体に厚さ1.5m～３mもの瓦礫層がみられ、その直下は若干の黒色土層を介してローム層がみられる。調査地区最南端部で平安時代の９世紀半ば頃の甲斐型土器を出土する住居跡１軒を確認した。また、南東部で旧石器時代の剥片を確認したため、長さ10～２m、幅50cmほどの調査溝をさらに設定し、ローム層の深掘作業を行った。その結果、旧石器時代の剥片がローム層中50cmほどの深さまでに分布し、合計25点を確認した。遺跡の面積は約3,000㎡と思われる。

18-7　石和警察署移転予定地試掘調査

所 在 地　東八代郡石和町市部
調査期間　1997年10月14日～21日
　　1998年３月30日～31日
調査面積　330㎡（7,600㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫

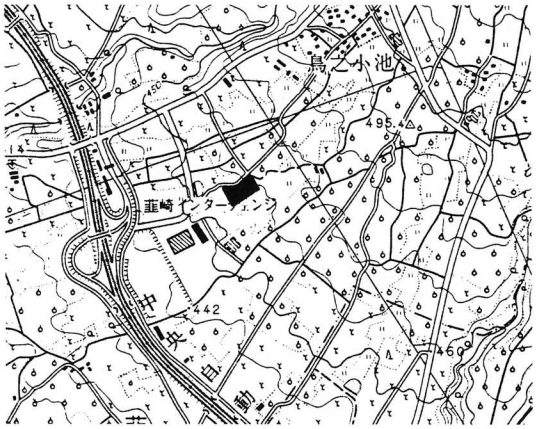


石和警察署移転予定地　試掘調査地点

山梨県警石和警察署移転予定地の遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ30～15m、幅２mの試掘溝を長軸を東西方向にして平行して６本設定し、バックホーで2.5m程度まで掘り下げた。いずれの調査溝でも、厚さ２mほどの砂層がみられ、その下位に黒灰色のシルト層の堆積があり、2.5～３mで湧水した。砂層はラミナの発達がみられ、薄い礫層も２～３枚みられる。黒灰色のシルト層の上部から、近世・近代と思われる陶磁器や漆椀などが数点出土したが、出土量がきわめて少なく、遺構もみられなかった。

18-8　宮久保地区試掘調査

所 在 地　韮崎市穂坂町宮久保
調査期間　1997年11月10日～12月２日
調査面積　2,000㎡（10,000㎡）
担 当 者　小林広和・保坂康夫

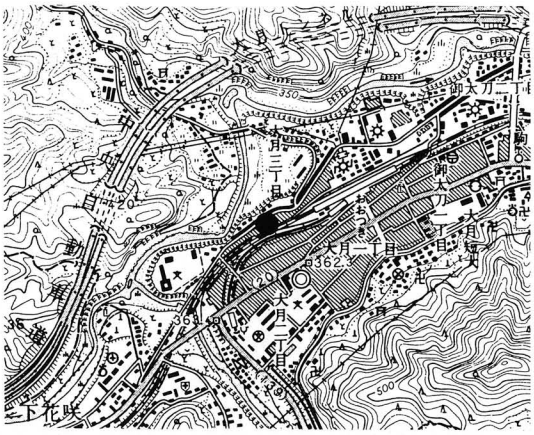


宮久保地区試　掘調査地域

県営アパート建設予定地の遺跡所在確認のための試掘調査である。長さ80～30m、幅２mの調査溝を28本設定した。各調査構内には、旧石器時代遺物の確認のため、幅１mの調査溝を設定し、さらに50～100cmを深掘りした。30cmほどの黒褐色土層、50～100cmほどの褐色粘土質土層、約50cmの白褐色粘土質土層、10cmほどの鉄分沈着層、20～30cmほどの白灰色粘土層、基盤礫層といった土層がみられた。白褐色粘土質土層は約８万年前の降灰の御岳第１軽石層の変質層と思われる。遺物・遺構は全く確認できなかった。

18-9　御立原遺跡試掘調査

所 在 地　大月市大月３丁目字御立原1145-3外
調査期間　1997年７月28日～７月31日
調査面積　120㎡（1,650㎡）
担 当 者　長沢宏昌・崎田　哲



御立原遺跡　試掘地点

大月公共職業安定所の移転予定地の遺跡確認のための試掘調査である。長さ５～２m、幅２～６mの調査溝を10カ所設定し掘り下げた。いずれの調査溝でも、深さ60～100cm程度が客土ないし攪乱層である。その下位に、暗褐色粘質土層が１m程度みられ、さらに下部には、ローム層が確認できた。５カ所の調査溝から数点の土器等の遺物がみられたが、出土量が微量で遺構も確認できなかった。

Ⅲ県内の概況

1．発掘調査　本年度に実施された発掘調査は、試掘調査も含めて183件で、調査主体別に見ると県が26件、市町村が155件、調査団によるものが２件となっている。原因別に見ると、住宅52件、道路38件、その他建物26件、その他開発が17件、宅地造成16件、農業関連９件、学校４件、工場３件、公園造成３件、土砂採取２件、電気２件、区画整理２件、観光開発２件といった緊急調査が176件、学術調査が７件となっている。

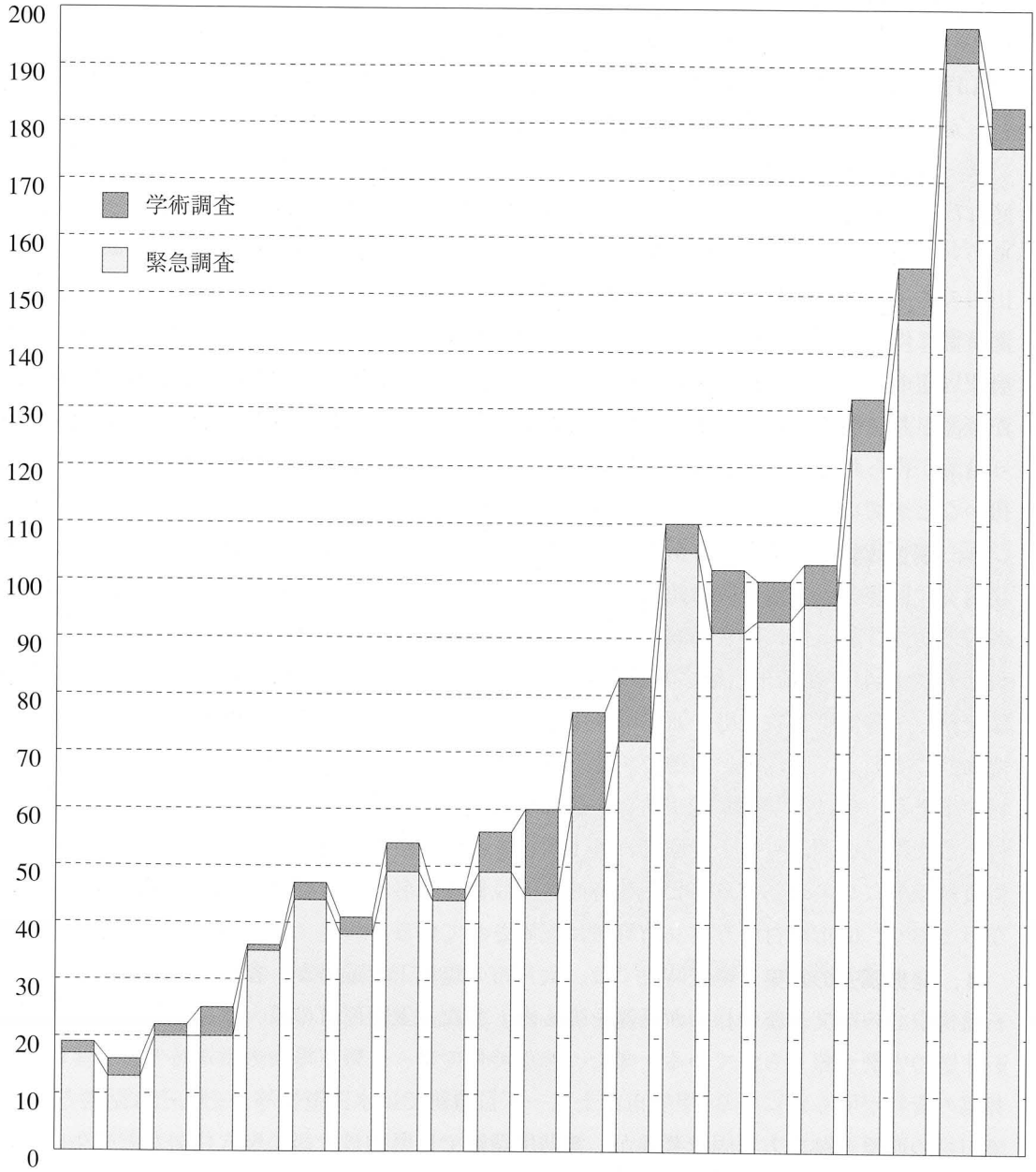
2．遺跡の保存整備　国指定史跡の武田氏館跡では、整備のため調査が継続的に行われ、絵図にはない遺構が確認された。同じく国指定史跡の谷戸城跡でも整備を前提にした発掘調査が。進められた。県指定跡の岩殿城跡でも学術調査が進められ建物跡など確認されている。富士吉田市の吉田登山道の２年次の調査では石畳遺構が確認された。また平成２年度から継続して公園整備に伴う発掘調査が進められている県指定史跡の甲府城跡では、山手門付近において、甲府駅周辺の都市拠点整備に先立つ確認調査が行われ、甲府城築城期と見られる石垣と堀の一部が確認され、開発保存かで広く注目を集めた。今後さらに必要な調査や関係者の協議などにより結論が得られることになるが、甲府城の範囲や史跡指定範囲外での埋蔵文化財としての取り扱いなど適切な対応が求められている。

3．調査体制　埋蔵文化財選任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化財課３名（他に博物館関係１名）、埋蔵文化財センター33名（他に非常勤嘱託２名）、考古博物館２名（他に非常勤嘱託１名）、市町村では、甲府市６名、御坂町２名（他に教育委員会外に１名）、韮崎市（他に非常勤嘱託１名）・都留市・塩山市・山梨市・春日居町（資料館兼務）・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・境川村・豊富村・八代町・一宮町（他に釈迦堂博物館に１名）・三珠町・増穂町・櫛形町・甲西町・白根町・敷島町・竜王町・双葉町・大泉村・須玉町（他に非常勤嘱託１名）・長坂町（他に非常勤嘱託１名）・明野村・高根町・武川村・白州町・小淵沢町・上野原町に各１名、また大月市の博物館に２名、富士吉田市の歴史民俗資料館等に２名が、若草町と昭和町の共同設置で１名の合計45名（非常勤嘱託３名含む）となっており、64市町村のうち36市町村に配置されている。

4．発掘調査の結果　縄文時代では、大月市の塩瀬下原遺跡が、多量の石皿などを含んだ配石遺構中心の縄文遺跡の様相が話題を呼んだ。また、上野原町の原・郷原遺跡で縄文後期の敷石住居の好例が報じられている。また、弥生時代では、上野原町南大浜遺跡で、弥生中期の再葬墓の資料が明らかになり、甲府市富士見一丁目遺跡では水田遺構等がそれぞれ話題となった。境川村の西原遺跡で方形周溝墓群が、諏訪尻遺跡では県内最大級の竪穴住居など弥生から古墳時代にかけての集落跡が明らかになった。古墳時代では、塩山市下西畑遺跡で方形周溝墓群が長坂町龍角西遺跡で集落が確認された。一宮町南西田遺跡では、平安集落に重複して道路状遺構が発見され、また韮崎市の石之坪遺跡も昨年から継続しての集落調査が注目された。中世では、長坂町横針遺跡で地下式土壙など墓域とみられる遺構が明らかになった。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

（単位：件）



	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
学術調査	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7
緊急調査	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176
合　計	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183

1997年度　発掘調査一覧表

（学術文化財課に提出された発掘調査の報告等による）

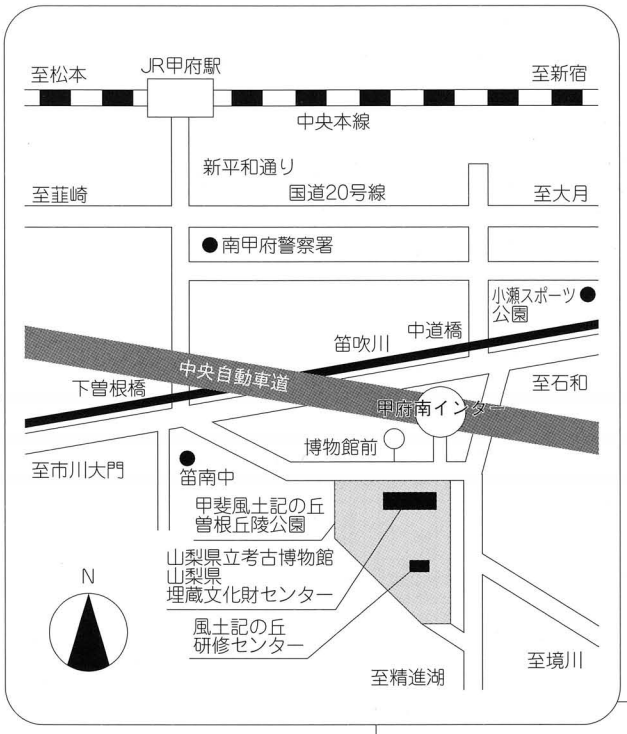
No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
1	松ノ尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下城15他	5,362.00	集落跡	古・奈・平	宅地造成	敷島町教育委員会	1997/4/2～1997/8/31
2	甲府城跡	甲府市丸の内１丁目5	8,200.00	城館跡	近世	公園造成	山梨県教育委員会	1997/4/7～1998/3/31
3	往還東Ｂ遺跡	中巨摩郡櫛形町桃園雨ヶ久保1716-1他	300.00	散布地	中世・近世	その他建物（店舗）	櫛形町教育委員会	1997/4/14～1997/4/30
4	古宮遺跡	甲府市長松寺町759-1他	5,067.06	その他の遺跡（確認調査）		その他建物	甲府市教育委員会	1997/4/1～1997/8/31
5	八幡神社遺跡	甲府市宮前町6-11	1,051.43	散布地	縄文	住宅	甲府市教育委員会	1997/4/1～1997/4/30
6	南大浜遺跡	北都留郡上野原町鶴川日野道1060	3,200.00	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1997/4/21～1998/3/31
7	落合氏館跡	甲府市国玉町一ノ坪1085	2,080.14	城館跡	中世	住宅	甲府市教育委員会	1997/4/1～1997/4/30
8	京原遺跡	東八代郡境川村小山26-3	20.00	散布地	縄文・弥生	その他建物（倉庫）	境川村教育委員会	1997/4/11～1997/4/21
9	山の神遺跡	北巨摩郡高根町村山北割4189-4他	50.00	散布地	縄文	その他建物（別荘）	高根町教育委員会	1997/4/18～1998/3/31
10	新居遺跡	北巨摩郡白州町横手新居1966-2	90.00	散布地	平安・中世	住宅	白州町教育委員会	1997/4/21～1997/5/30
11	甲斐国分尼寺遺跡	東八代郡一宮町東原574-1	311.52	社寺跡	奈良・平安	住宅	一宮町教育委員会	1997/4/28～1997/6/30
12	天神原遺跡	東八代郡一宮町塩田677他	1,052.47	集落跡	縄文・平安	その他開発（計画策定中）	一宮町教育委員会	1997/4/21～1997/5/30
13	街道端遺跡	中巨摩郡白根町飯野街道端3553-1	1,337.00	散布地	中世	住宅	白根町教育委員会	1997/5/6～1997/5/6
14	横畑遺跡	東八代郡御坂町成田560-1	883.52	散布地	古・奈・平	住宅	御坂町教育委員会	1997/4/28～1997/5/2
15	八田畑遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原八田畑1231-1他	3,000.00	集落跡	弥生	住宅	山梨県教育委員会	1997/5/6～1997/8/6
16	諏訪尻遺跡	東八代郡境川村藤垈諏訪尻3883-11他	3,000.00	集落跡	縄・弥・古	宅地造成	山梨県教育委員会	1997/5/6～1998/3/31
17	松葉畑遺跡	東八代郡石和町川中島松葉畑南1110-1他	740.00	散布地	平安	その他建物（下水ポンプ室）	山梨県教育委員会	1997/5/7～1997/5/7
18	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里3545-2627	30.00	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1997/4/4～1997/7/15
19	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里3545-550	20.00	散布地	旧・縄	その他建物（美術館）	高根町教育委員会	1997/4/14～1997/8/31
20	似田遺跡	北巨摩郡高根町下黒沢3750-112	10.00	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1997/4/14～1997/7/31
21	供養寺遺跡	東八代郡中道町右左口供養寺3090-1	2,000.00	散布地	縄文・古墳	その他開発（広域斎場）	中道町教育委員会	1997/5/9～1997/12/28
22	塩瀬下原遺跡	大月市柳川町塩瀬842-2他	5,000.00	集落跡	縄文	その他開発（終末処理場）	山梨県教育委員会	1997/4/12～1998/3/31
23	伊保水遺跡	塩山市千野3568他	2,000.00	集落跡・その他の墓	中世・近世	学校	山梨県教育委員会	1997/5/6～1997/8/29
24	沢渡Ⅱ遺跡	北都留郡上野原町椚原沢渡10737他	15.00	散布地	縄文	道路	上野原町教育委員会	1997/5/6～1997/5/17
25	甲府城跡	甲府市丸の内１丁目573他	269.80	城館跡	近世	その他建物（ホテル）	甲府市教育委員会	1997/5/7～1997/5/18
26	米山遺跡	北巨摩郡長坂町大八田6811-159他	24,800.00	散布地	縄文	道路	山梨県教育委員会	1997/5/13～1997/6/13
27	北小路遺跡	北巨摩郡武川村黒沢1676	10.00	散布地	縄文・中世	宅地造成	武川村教育委員会	1997/4/21～1997/4/21
28	原平遺跡	大月市真木712	7,219.00	集落跡	縄文・平安	その他開発（駐車場）	大月市教育委員会	1997/4/22～1997/9/30
29	井富遺跡	北巨摩郡大泉村西井出7147-1他	2,500.00	散布地	近世	学術（分布確認）	大泉村教育委員会	1997/4/21～1997/5/9
30	甲ツ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出大林8853他	610.00	集落跡	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	1997/5/19～1997/9/30
31	大林遺跡	北巨摩郡高根町箕輪3151他	7,770.00	散布地	平安	道路	山梨県教育委員会	1997/5/12～1997/7/31
32	大林上遺跡	北巨摩郡高根町箕輪2604他	1,700.00	散布地	古墳	道路	山梨県教育委員会	1997/5/12～1997/7/31
33	塩川下河原堤防遺跡	韮崎市中田町中条1830-1先他	1,200.00	その他の遺跡（堤防）	近世	観光開発	韮崎市教育委員会	1997/4/1～1998/3/31
34	横根積石塚古墳群	甲府市横根町	460.00	古墳	古墳	その他開発（山林伐採）	甲府市教育委員会	1997/5/6～1997/5/31
35	田代辻遺跡	都留市四日市場田代辻37-1	744.00	散布地	平安・中世	その他建物（店舗）	都留市教育委員会	1997/5/22～1997/6/30
36	石塔取遺跡	北巨摩郡高根町東井出1445-2他	2,800.00	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1997/5/19～1998/3/31

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
37	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2324他	780.00	集落跡	旧・縄・古・平・中	道路	八代町教育委員会	1997/5/12～1997/9/30
38	北河原遺跡	中巨摩郡白根町在家塚北河原2157-1他	1,337.00	散布地	近世	住宅	白根町教育委員会	1997/5/28～1997/5/28
39	榎田遺跡	甲府市千塚５丁目3086-1	246.59	散布地	弥・古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1997/6/1～1997/7/30
40	石和高校周辺遺跡	東八代郡石和町市部3他及び御坂町1951-2他	500.00	散布地	縄・弥・古・奈・平	学校	山梨県教育委員会	1997/6/9～1997/8/30
41	南西田遺跡	東八代郡一宮町坪井	5,000.00	散布地	古・奈・平	道路	一宮町教育委員会	1997/4/21～1998/3/31
42	甲府城関連遺跡	甲府市丸の内１丁目558-2他	8,430.02	城館跡	近世	区画整理	甲府市教育委員会	1997/6/2～1997/6/14
43	東入遺跡	北巨摩郡高根町下黒沢東入1430-1他	999.00	散布地	縄文	その他建物（別荘）	高根町教育委員会	1997/5/23～1997/6/30
44	横森東上遺跡	北巨摩郡高根町箕輪横森東上475他	750.00	散布地	縄文	土砂採取	高根町教育委員会	1997/6/2～1997/6/10
45	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里念場原3545-1083他	973.55	散布地	縄文	学校	高根町教育委員会	1997/5/20～1998/3/10
46	朝気遺跡	甲府市朝気３丁目	250.00	散布地	弥・古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1997/5/12～1997/6/13
47	宮の前遺跡	北巨摩郡高根町蔵原宮の前1703-1他	8,800.00	集落跡	縄文	農業関連	高根町教育委員会	1997/6/4～1997/12/10
48	西原遺跡	東八代郡境川村小山256-1他	1,500.00	集落跡	縄・弥・古	農業関連	境川村教育委員会	1997/4/21～1997/12/26
49	緑が丘２丁目遺跡	甲府市緑が丘２丁目897-6	130.07	散布地	古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1997/5/29～1997/6/29
50	真原Ｂ遺跡	北巨摩郡武川村山高真原3567-535	10.00	散布地	縄文	住宅	武川村教育委員会	1997/6/5～1997/7/31
51	西畑遺跡	大月市賑岡町強瀬西畑579-1	1,038.00	散布地	平安	住宅	大月市教育委員会	1997/5/7～1997/7/20
52	藤塚遺跡	中巨摩郡櫛形町桃園東原1478-30他	16.00	散布地	平安・中世	住宅	櫛形町教育委員会	1997/6/17～1997/6/28
53	東姥神遺跡	北巨摩郡大泉村西井出4371-1他	486.00	散布地	平安	住宅	大泉村教育委員会	1997/5/30～1997 6/30/
54	石堂第２遺跡	北巨摩郡大泉村西井出石堂8240-2640	80.00	集落跡	縄文	学術（分布確認）	大泉村教育委員会	1997/5/26/～1997/6/30
55	桂野遺跡	東八代郡御坂町下黒駒2416-1他	11,000.00	散布地	縄文	道路	御坂町教育委員会	1997/6/9～1998/3/31
56	宮久保遺跡	北巨摩郡長坂町塚川2155他	3,000.00	散布地	縄文	区画整理	長坂町教育委員会	1997/5/13～1997/8/31
57	大椚遺跡群(大椚Ⅰ・Ⅱ遺跡)	北都留郡上野原町八ツ沢降屋戸2192他	5,700.00	散布地	縄文・平安	工場	大椚遺跡群発掘調査団	1997/6/20～1997/11/28
58	堀川遺跡	東八代郡八代町北844	264.00	散布地	奈・平・中	宅地造成	八代町教育委員会	1997/5/19～1997/6/20
59	梨木遺跡	東八代郡八代町竹居1847-1他	48.00	散布地	縄・中・近	道路	八代町教育委員会	1997/6/26～1997/7/4
60	代中遺跡	東八代郡豊富村木原1213-1	4.00	散布地	縄文・古墳	住宅	豊富村教育委員会	1997/6/30～1997/6/30
61	大久保遺跡	都留市古川渡大久保42-1	2,242.55	散布地	縄文	住宅	都留市教育委員会	1997/6/30～1997/7/31
62	元免許遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町元免許251-6他	2,500.00	集落跡・城館跡	弥生	住宅	山梨県教育委員会	1997/7/2～1997/7/11
63	上小用遺跡他５遺跡	北巨摩郡白州町鳥原上小用526他	5,000.00	散布地	縄・平・中	農業関連	白州町教育委員会	1997/7/1～1997/11/30
64	東原Ⅱ遺跡	中巨摩郡白根町西野1394	5,920.00	散布地	平安	その他開発（保育所）	白根町教育委員会	1997/7/7～1997/7/7
65	大林遺跡	北巨摩郡長坂町長坂上条2043-79他	3,810.87	散布地	縄文	その他開発（郵便局）	山梨県教育委員会	1997/7/14～1997/7/28
66	南口Ｂ遺跡	甲府市南口町652-7	400.00	散布地	平安	その他建物（集会場）	甲府市教育委員会	1997/6/15～1997/7/15
67	薬師堂遺跡	東八代郡一宮町末木336	400.00	散布地	古・中・近	その他開発（防災施設）	一宮町教育委員会	1997/6/5～1997/8/31
68	石之坪遺跡	韮崎市円野町上円井石之坪1583他	5,000.00	集落跡	縄・奈・平・中	農業関連	韮崎市教育委員会	1997/5/30～1998/3/31
69	長塚道上遺跡	韮崎市竜岡町長塚道上989他	40.00	集落跡	古墳	宅地造成	韮崎市教育委員会	1997/6/12～1998/3/31
70	三宮地遺跡	韮崎市藤井町北下条三宮地39-1他	1,600.00	集落跡	縄文・平安	道路	韮崎市教育委員会	1997/5/19～1998/3/31
71	真原Ａ遺跡	北巨摩郡武川村山高真原3567-3	2,000	散布地	縄文	農業関連	武川村教育委員会	1997/5/12～1997/8/29
72	八幡・八幡村北・今井前遺跡	中巨摩郡若草町下今井西原311-2地先	960.00	散布地	弥・古・奈・平・中	道路	若草町教育委員会	1997/7/28～1997/9/30
73	堰西遺跡	北巨摩郡双葉町大垈2617他	6,297.00	散布地	中世・近世	学校	双葉町教育委員会	1997/6/26～1997/6/27
74	御立原遺跡	大月市大月３丁目御立原1145-3他	1,650.00	散布地	平安	その他開発（駐車場）	山梨県教育委員会	1997/7/28～1997/7/31

75	遅郷遺跡	大月市大月町花咲遅郷791	15.00	散布地	縄文	その他開発(仮設事務所等)	大月市教育委員会	1997/7/19～1997/7/22
76	今井前遺跡	中巨摩郡櫛形町吉田大草1324地先	300.00	散布地	平安・中世	道路	櫛形町教育委員会	1997/7/30～1997/9/30
77	中川手遺跡	北巨摩郡高根町村山東割中川川手2337-13	100.00	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1997/8/8～1997/12/31
78	宮の前南遺跡	山梨市七日市場東宮ノ前南997	1,283.00	散布地	縄文・平安	宅地造成	山梨市教育委員会	1997/5/20～1997/7/24
79	横針遺跡	北巨摩郡長坂町白井沢横針1751-1他	1,000.00	その他の遺跡（土坑群）	中世	道路	山梨県教育委員会	1997/8/18～1997/10/31
80	桂野遺跡	東八代郡御坂町上黒駒桂野大道上	1,500.00	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1997/9/1～1997/12/19
81	高部宇山平遺跡	東八代郡豊富村高部1570他	80.00	集落跡	縄・弥・古	住宅	豊富村教育委員会	1997/8/19～1997/8/26
82	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂立石786-1他	2,100.00	散布地	縄文	道路	境川村教育委員会	1997/9/1～1998/3/31
83	桐坪遺跡	北都留郡上野原町桐原6116	30.00	散布地	縄文	農業関連	上野原町教育委員会	1997/9/1～1997/9/2
84	能見城跡	韮崎市穴山町能見城3808他	150.00	城館跡	中世	電気	韮崎市教育委員会	1997/8/27～1998/3/31
85	坂井遺跡	韮崎市藤井町駒井茅林343他	350.00	集落跡	縄文	電気	韮崎市教育委員会	1997/9/9～1998/3/31
86	西光寺遺跡	東山梨郡春日居町鎮目上町田1103他	160.00	寺社跡	平安・中世	道路	春日居町教育委員会	1997/9/10～1997/10/1
87	女蚊窪遺跡	北巨摩郡高根町村下黒沢女蚊窪1993-1	10.00	散布地	縄文	道路	高根町教育委員会	1997/9/9～1997/10/31
88	五味遺跡	中巨摩郡白根町西野五味2600-1	973.15	散布地	平安	住宅	白根町教育委員会	1997/9/10～1997/9/10
89	後呂遺跡	東八代郡中道町右左口3143-1	2,690.00	集落跡	縄・弥・古	道路	中道町教育委員会	1997/8/20～1997/10/31
90	源氏籠遺跡	北巨摩郡小淵沢町上笹尾源氏籠847-1他	300.00	散布地	縄文・弥生	道路	小淵沢町教育委員会	1997/8/20～1997/11/28
91	夏秋遺跡	北巨摩郡小淵沢町上笹尾夏秋2538-53他	1,800.00	散布地	縄文・弥生	道路	小淵沢町教育委員会	1997/8/20～1977/11/28
92	新井遺跡	北都留郡上野原町上野原4511他	59.00	散布地	縄文	宅地造成	上野原町教育委員会	1997/9/18～1997/9/22
93	宮谷遺跡	大月市富浜町88-1	287.39	集落跡	縄文	宅地造成	大月市教育委員会	1997/9/17～1997/9/18
94	神東町遺跡	東山梨郡春日居町加茂77他	1,150.00	集落跡	古・奈・平	その他建物(保健センター)	春日居町教育委員会	1997/9/17～1998/3/31
95	武田氏館跡	甲府市屋形３丁目・大手３丁目	630.00	城館跡	中世	道路	甲府市教育委員会	1997/8/25～1997/11/30
96	八田畑遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原八田畑1309-3他	16.00	散布地	弥生・中世	住宅	櫛形町教育委員会	1997/8/25～1997/8/29
97	笹見原遺跡	南都留郡忍野村忍草笹見原1919-2	855.60	散布地	平安	道路	忍野村教育委員会	1997/7/1～1997/10/31
98	大月遺跡	大月市大月２丁目11-20他	1,000.00	集落跡	縄・平・中	道路	山梨県教育委員会	1997/9/16～1998/3/31
99	大坪遺跡	甲府市横根町反田458-2他	720.54	集落跡	古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1997/10/1～1997/10/6
100	竹居・御崎遺跡	東八代郡八代町竹居763-1他	22.50	散布地	縄文	道路	八代町教育委員会	1997/10/13～1997/10/17
101	市部遺跡	東八代郡石和町市部551	7,600.00	散布地	平安・近世	その他建物（警察署）	山梨県教育委員会	1997/10/14～1997/10/24
102	三光遺跡	東八代郡御坂町竹居2353-1他	1,771.00	散布地	縄文	道路	御坂町教育委員会	1997/10/13～1997/10/17
103	甲府城跡	甲府市丸の内１丁目562-2他	600.00	城館跡	近世	その他建物（駐輪場）	甲府市教育委員会	1997/10/6～1997/10/31
104	甲ツ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8867-1	100.00	集落跡	縄文	その他建物（物置）	大泉村教育委員会	1997/8/25～1997/9/25
105	立石北遺跡	東八代郡境川村小黒坂1755	61.00	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1997/10/14～1997/10/14
106	富士見１丁目遺跡	甲府市富士見1-1-1	4,252.00	散布地	平安・中世	その他建物（病院）	山梨県教育委員会	1997/10/6～1998/3/31
107	坊沢東遺跡	北巨摩郡双葉町岩森1285-5他	338.45	散布地	縄文	住宅	双葉町教育委員会	1997/10/3～1997/10/3
108	下西畑遺跡	塩山市赤尾769他	2,000.00	その他の墓(方形周溝墓)	古墳	道路	山梨県教育委員会	1997/10/13～1997/12/20
109	甲ツ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8867-1	15.00	集落跡	縄文	農業関連	大泉村教育委員会	1997/10/3～1997/10/4
110	代中東遺跡	東八代郡豊富村木原1267-1他	8.00	散布地	縄・平・近	住宅	豊富村教育委員会	1997/10/20～1997/10/20
111	スリオンテック遺跡	北巨摩郡小淵沢町上笹尾3434-8	4,279.40	散布地	縄文	その他開発（駐車場）	小淵沢町教育委員会	1997/10/8～1997/10/9
112	石橋北屋敷遺跡	中巨摩郡八田村野牛島石橋3005他	3,500	集落跡	中世	道路	山梨県教育委員会	1997/10/28～1998/2/26
113	棒道下10162-1番地遺跡	北巨摩郡小淵沢町棒道下10162-1	2,251.00	散布地	縄文	その他開発（駐車場）	小淵沢町教育委員会	1997/10/20～1997/10/24

No	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
114	龍角西遺跡	北巨摩郡長坂町長坂下条竜角	2,500.00	集落跡	古墳・平安	道路	長坂町教育委員会	1997/10/1～1998/12/20
115	原・郷原遺跡	北都留郡上野原町西原4699他	900.00	散布地	縄文	道路	上野原町教育委員会	1997/10/6～1998/3/31
116	横畑遺跡	東八代郡豊富村大鳥居3437-1他	523.00	集落跡	旧石器～近世	道路	豊富村教育委員会	1997/10/6～1997/11/28
117	御所平遺跡	大月市賑岡町強瀬412他	120.00	集落跡	中世	学術研究	大月市教育委員会	1997/11/4～1997/11/28
118	伝円通寺三重の塔跡地	大月市賑岡町岩殿170他	24.00	社寺跡	平安	学術研究	大月市教育委員会	1997/11/4～1997/11/4
119	横畑遺跡	東八代郡御坂町井之上892-2他	970.50	散布地	古・奈・平	住宅	御坂町教育委員会	1997/11/12～1997/11/21
120	宮久保遺跡	韮崎市穂坂町宮久保465他	10,000	集落跡	平安	住宅	山梨県教育委員会	1997/11/10～1997/12/5
121	沖田遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町1154-4	8.00	散布地	近世	住宅	竜王町教育委員会	1997/11/14～1997/11/14
122	二俣遺跡	北巨摩郡小淵沢町上笹尾二俣3261-16	100.00	その他の遺跡（陥し穴）	縄文	その他建開発（駐車場）	小淵沢町教育委員会	1997/10/20～1997/10/31
123	米山遺跡	北巨摩郡長坂町大八田米山6811-249他	1,000.00	散布地	縄文	道路	山梨県教育委員会	1997/10/13～1997/12/31
124	長峰砦遺跡	北都留郡上野原町大椚1108他	11,500.00	城館跡	中世	道路	山梨県教育委員会	1997/11/21～1998/3/31
125	山之上遺跡	北巨摩郡小淵沢町山之上10045	2,731.58	散布地	縄文	住宅	小淵沢町教育委員会	1997/10/1～1997/10/9
126	井詰原遺跡	北巨摩郡小淵沢町井詰原2973他	2,989.10	散布地	縄文	住宅	小淵沢町教育委員会	1997/9/1～1997/9/5
127	鯛沢遺跡	北巨摩郡小淵沢町鯛沢9459	92.34	散布地	縄文	住宅	小淵沢町教育委員会	1997/11/20～1997/11/21
128	メ木遺跡	中巨摩郡櫛形町下市之瀬メ木1253他	400.00	散布地	縄文・平安	公園造成	櫛形町教育委員会	1997/11/25～1997/12/26
129	中の島遺跡	東八代郡芦川村鶯宿940-1他	64.00	散布地	縄文・古墳	その他建物（汚水処理施設）	芦川村教育委員会	1997/12/4～1997/12/4
130	甲府城跡	甲府市丸の内1丁目562-2他	600.00	城館跡	近世	その他建物（駐輪場）	甲府市教育委員会	1997/9/10～1997/12/26
131	沖田遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町675-3	55.00	散布地	近世	住宅	竜王町教育委員会	1997/12/9～1997/12/10
132	梨木遺跡	東八代郡八代町竹居1814他	825.95	散布地	縄・平・中・近	道路	八代町教育委員会	1997/12/9～1998/1/31
133	後子の神遺跡	東八代郡境川村藤垈3057-3	24.00	散布地	縄文・平安	住宅	境川村教育委員会	1997/12/11～1997/12/11
134	狐塚遺跡	中巨摩郡櫛形町下市之瀬切付1430-13	100.00	古墳	古墳	学術研究	櫛形町教育委員会	1997/12/8～1997/12/26
135	城下遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸238-1	5.00	集落跡	縄文・平安	住宅	大泉村教育委員会	1997/7/23～1997/7/23
136	石堂遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8240-2233	3,000.00	散布地	縄文	その他建物（店舗）	大泉村教育委員会	1997/11/4～1997/11/14
137	棒道下100060-452番地遺跡	北巨摩郡小淵沢町棒道下10060-452	7,071.52	散布地	縄文	その他開発（保養所）	小淵沢町教育委員会	1997/12/12～1997/12/18
138	弥二郎遺跡	東八代郡豊富村関原935他	227.50	集落跡	旧・縄・弥・古・中	土砂採取	豊富村教育委員会	1997/12/9～1997/12/16
139	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里念場原3545	8,000.00	散布地	旧石器・中世	その他建物（学校寮）	高根町教育委員会	1997/10/23～1997/10/24
140	駒平遺跡	東八代郡豊富村木原11他	1,192.50	集落跡	縄・古・近	道路	豊富村教育委員会	1997/12/15～1998/2/27
141	塩部遺跡	甲府市宝1丁目50-1他	1,846.13	集落跡	縄文～近世	住宅	甲府市教育委員会	1997/12/16～1998/1/19
142	黒沢遺跡	北巨摩郡武川村黒沢1716-4他	1,500.00	散布地	縄文	宅地造成	武川村教育委員会	1997/12/10～1998/3/31
143	向原遺跡	北巨摩郡武川村黒沢1762-3他	2,000.00	集落跡	縄文・中世	宅地造成	武川村教育委員会	1997/12/19～1998/3/31
144	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里念場原3545-697他	7,167.45	散布地	旧石器・縄文	学術研究（確認調査）	高根町教育委員会	1197/12/18～1997/12/19
145	念場原遺跡	北巨摩郡清里念場原3545-1	18,000.00	散布地	旧石器・中世	農業関連	高根町教育委員会	1997/11/4～1998/3/31
146	沢戸遺跡	都留市井倉沢戸775-1他	66,038.87	散布地	縄文	工場	都留市教育委員会	1997/1/16～1998/1/31
147	大椚遺跡群（南大浜遺跡）	北都留郡上野原町大椚南大浜36他	9,300.00	散布地	縄文	工場	大椚遺跡群発掘調査団	1997/1/26～1998/8/30
148	荊原遺跡	中巨摩郡白根町百々荊原1662-2他	160.52	散布地	平・中・近	住宅	白根町教育委員会	1997/1/21～1998/1/21
149	森の上南遺跡	東八代郡八代町南326-1他	75.00	散布地	古・奈・平・中・近	その他建物（福祉センター）	八代町教育委員会	1997/1/14～1998/1/29
150	天神原遺跡	東八代郡一宮町塩田678他	300.00	集落跡	縄・奈・平・中	宅地造成	一宮町教育委員会	1997/9/1～1997/12/20
151	上原西遺跡	東津代群境川村寺尾2922-4	46.00	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1998/1/28～1998/1/28

152	上原西遺跡	東八代郡境川村寺尾2891-1	42.00	散布地	縄文	その他建物（建物）	境川村教育委員会	1998/1/28～1998/1/28
153	霞堤	中巨摩郡竜王町竜王1531-5	18.00	その他の遺跡（堤防跡）	近世	住宅	竜王町教育委員会	1998/2/3～1998/2/4
154	住吉遺跡	中巨摩郡甲西町古市場住吉248-1	1,381.62	散布地・集落跡	弥生・古墳	宅地造成	甲西町教育委員会	1998/2/2～1998/3/31
155	宮地遺跡	北巨摩郡高根町清里念場原3545-697他	2,287.00	散布地・集落跡	縄文	その他開発（駐車場）	高根町教育委員会	1998/2/12～1998/2/19
156	下西窪遺跡	北巨摩郡小淵沢町西窪8995他	500.00	散布地	縄文	農業関連	小淵沢町教育委員会	1998/1/28～1998/1/30
157	森西Ⅱ遺跡	中巨摩郡白根町下今井諏訪森西204	51.96	散布地	中世・近世	住宅	白根町教育委員会	1998/2/12～1998/2/12
158	宮ノ前遺跡	山梨市七日市場1068-1	71.50	散布地	縄・奈・平	その他建物（防火水槽）	山梨市教育委員会	1998/2/6～1998/2/27
159	上前後沢遺跡	北巨摩郡小淵沢町上前後沢4253-2の一部	114.15	散布地	縄文・弥生	住宅	小淵沢町教育委員会	1998/2/16～1988/2/20
160	甲ツ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出和田9090他	270.00	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1998/3/2～1998/3/17
161	古関野遺跡	北巨摩郡小淵沢町古関野3125の一部	2,779.90	散布地	縄文	宅地造成	小淵沢町教育委員会	1998/2/23～1998/2/25
162	西原遺跡	東八代郡境川村小山西原458-1	250.00	散布地	縄文	道路	境川村教育委員会	1998/3/2～1998/3/27
163	埋没条里遺構	東八代郡御坂町成田2185-1他	16,760.90	その他の遺跡（条里）	古・奈・平	その他建物（温泉施設）	御坂町教育委員会	1998/3/4～1998/3/30
164	吉沢Ａ遺跡	甲府市平瀬町平瀬933	509.00	散布地	縄・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1998/3/2～1998/3/9
165	沖田遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町沖田810-2	8.00	散布地	近世	住宅	竜王町教育委員会	1998/3/6～1998/3/6
166	霞堤	中巨摩郡竜王町玉川305-1他	48.00	その他の遺跡（堤防跡）	近世	住宅	竜王町教育委員会	1998/3/10～1998/3/10
167	新井Ｂ遺跡	北巨摩郡高根町蔵原新井3094-1他	760.00	散布地	縄文	道路	高根町教育委員会	1998/2/26～1998/3/10
168	神町東遺跡	東山梨郡春日居町寺本58他	50.00	集落跡	古・奈・平	学術研究（国府関連）	春日居町教育委員会	1998/3/10～1998/3/31
169	塩沢新遺跡	中巨摩郡白根町塩前塩沢前888	162.50	散布地	中世	その他開発（商業施設）	白根町教育委員会	1998/3/13～1998/3/13
170	古八幡遺跡	甲府市古府中町古八幡1507	1,475.00	城館跡	中世	その他開発（駐車場）	甲府市教育委員会	1998/11/17～1998/12/5
171	飯平Ⅱ遺跡	中巨摩郡白根町飯野飯原	52.75	散布地	中世	観光開発	白根町教育委員会	1998/3/16～1998/3/16
172	米倉Ａ条里制遺構	東八代郡八代町米倉1282-1他	160.00	その他の遺跡（条里遺構）	奈良・平安	その他建物（配送センター）	八代町教育委員会	1998/3/2～1998/3/27
173	甲府城関係遺跡	甲府市北口１丁目97	155.83	散布地	近世	住宅	甲府市教育委員会	1998/3/23～1998/3/27
174	山之神遺跡	甲府市山宮町宮ノ尾根2903	565.46	城館跡	中世	宅地造成	甲府市教育委員会	1998/3/23～1998/3/30
175	霞堤	中巨摩郡竜王町富竹新田1278-7	8.00	その他の遺跡（堤防跡）	近世	住宅	竜王町教育委員会	1998/3/23～1998/3/23
176	沖田遺跡	中巨摩郡竜王町竜王新町沖田860-3	9.00	散布地	近世	住宅	竜王町教育委員会	1998/3/23～1998/3/23
177	天神遺跡	東八代郡境川村寺尾4227-2	131.00	散布地	縄文	その他建物（倉庫）	境川村教育委員会	1998/3/23～1998/3/31
178	天神西遺跡	東八代郡境川村寺尾4221	67.00	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1998/3/23～1998/3/31
179	立石北遺跡	東八代郡境川村小黒坂1752	105.00	散布地	縄文・古墳	宅地造成	境川村教育委員会	1998/3/23～1998/3/31
180	上原西遺跡	東八代郡境川村寺尾2921-3	27.00	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1998/3/23～1998/3/31
181	坂下遺跡	中巨摩郡櫛形町山寺坂下654-1他	50.00	散布地	縄・古・平	宅地造成	櫛形町教育委員会	1998/3/23～1998/4/10
182	御座田遺跡	韮崎市龍岡町下条南御座田	15.00	その他の遺跡（治水関連遺跡）	中世・近世	公園造成	韮崎市教育委員会	1998/2/26～1998/2/26
183	後子の神遺跡	東八代郡境川村藤垈3042他	180.00	散布地	縄文・平安	その他建物（ギャラリー・アトリエ）	境川村教育委員会	1998/3/26～1998/3/31



●路線バスのご利用

甲府駅より豊富行の県立考古博物館で下車

●高速バスご利用（２時間）

新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年　報　14

印刷日　平成10年３月25日
発行日　平成10年３月31日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL 0552－66－3881・0552－66－3016
FAX0552－66－3882

印刷所　株式会社 峡南堂印刷所
TEL 0552－35－2528